# 高知大学医学部看護学科
# 年報
## Annual Report

## 2024（令和 6）年度

高知大学医学部看護学科

# 目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ．学部及び研究科の目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

医学部看護学科
総合人間自然科学研究科看護学専攻（修士課程）

Ⅱ．入学者・卒業生・修了生の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

Ⅲ．教職員組織構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

Ⅳ．領域別の教育・研究・社会活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

基礎看護学講座
基礎看護学領域
臨床看護学講座
成人看護学領域 ／ 臨床看護学領域 ／ 小児看護学領域
母性看護学領域 ／ 助産学領域 ／ 精神看護学領域
地域看護学講座
高齢者看護学領域 ／ 在宅看護学領域 ／ 公衆衛生看護学領域

Ⅴ．研究助成金取得状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

Ⅵ．看護学科運営に関する委員会・活動報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

# はじめに

平素は格別のご支援ご協力を賜り，厚く御礼申し上げます.

この度,「高知大学医学部看護学科 年報 2024（令和 6）年度」をお届けする運びとなりました. 本学科の活動にご理解とご支援を賜っております皆様に，心より感謝申し上げます.

高知大学は 2024 年に創立 75 周年を迎えました．医学部は 1976 年に高知医科大学として開学し,後に高知大学と統合し 20 年を過ぎました. これまで多くの卒業生を輩出しており，2024 年度も本学科は，質の高い看護専門職の育成という使命のもと，教育，研究，そして地域社会への貢献活動を着実に推進してまいりました.

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を受け，2022 年 4 月に新カリキュラムがスタートをして 2 年が経過をしました．教育面では，学生が主体的に学ぶ力を養うため，看護に関する最新の知見を取り入れた新たな講義を開設いたしました．また，臨地実習においては，県内外の主要な医療機関との連携を一層強化し，多様な医療現場での実践的な学びの機会を拡充いたしました．地域包括ケアの現場を体験する実習を新たに導入し，高齢化が進む高知県における看護の重要性を肌で感じる機会を提供いたしました．高知大学医学部附属病院をはじめ，協力機関の皆様には，多大なるご指導とご支援を賜り，心より感謝申し上げます.

研究活動においては，教員の研究活動に加え，学生の研究マインドを育成するための科目を開設しました．低学年から研究に触れ，4 年生の卒業研究にも興味・関心をもてる機会を提供しました．また，地域貢献活動では，ダウン症協会や特別支援学校に協力し，ボランティア活動にも積極的に参加いたしました.

詳細につきましては，本年報にて各活動の具体的な内容や成果をご報告しておりますので，ご高覧いただければ幸いです.

今後も，時代の変化に対応した質の高い看護教育を提供するとともに，地域社会のニーズに応える看護人材の育成，そして看護学の発展に貢献できるよう，教職員一同，より一層努力してまいります. 引き続き，ご理解ご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます.

敬具

高知大学医学部看護学科
学科長　大坂 京子

# Ⅰ．学部及び研究科の目的と概要

## 医学部看護学科

医学部看護学科は，「教養と専門知識を基盤に，人々のこころに寄り添う感性と高い社会正義感を持って，看護実践能力を用いて，人々の健康と生活を支えることができる看護専門職」，「社会に生じてくるさまざまな問題を看護の視点でとらえ，多職種と協働しながら課題の解決に向かうよう自ら学びつづけ，よりよい医療・看護を実現できる革新力を備えた人材」の養成を行う．

看護学科学生の教育課程は，高知大学医学部規則第 7 条の規定に基づき制定された医学部看護学科授業科目履修規則により授業科目を履修するものとする．また，授業の実施に必要な事項については，医学部看護学科授業実施細則に定める．

看護学科では 2022 年度入学生から教育課程（カリキュラム）が改訂され，卒業時の資格取得や専門性を高めることを視野に入れた看護学コースと公衆衛生看護学コースの 2 つのコースを設置した．いずれかのコースに所属することとし，2 年次 12 月以降に希望コース調査を実施する．ただし，公衆衛生看護学コースに関しては履修可能な人数に制限があり（制限を超えた場合は選抜試験がある），2 年次までにあらかじめ履修しておくべき科目の単位を取得が必要である．養護教諭 1 種免許状の取得を目指す場合は，入学当初から教職関連科目を計画的に履修し，単位修得が必要である．養護教諭 1 種免許状取得は履修可能な人数に制限はない．

## 2024 年度　医学部看護学科　学年歴・行事

| 日　　程 | 行　　事 |
|---|---|
| 2024 年<br>4 月 1 日（月） | 学年始め |
| 4 月 3 日（水） | 入学式 |
| 4 月 2 日（火）～ 4 月 9 日（火） | 各学年オリエンテーション |
| 4 月 5 日（金）～ 4 月 8 日（月） | 1 学期 WEB 履修登録期間 |
| 4 月 12 日（金） | 1 学期授業開始 |
| 4 月 13 日（土）・14 日（日） | 新入生歓迎イベント |
| 5 月 13 日（月）～ 6 月 21 日（金） | （保）公衆衛生看護学実習<br>（看）地域生活者支援実習・クリティカルケア看護実習（4 年生）<br>養護実習（4 年生） |
| 7 月 16 日（火）～ 8 月 2 日（金） | 統合看護実習・在宅看護実習Ⅱ（4 年生） |
| 8 月 1 日（木）～ 8 月 7 日（水） | 1 学期試験期間（1 年生・2 年生・3 年生） |
| 8 月 8 日（木） | 夏季休業開始 |
| 8 月・9 月・10 月・11 月 | 教職科目集中講義（2 年生・3 年生） |
| 8 月 31 日（月） | 夏季休業終了 |
| 9 月 2 日（月）～ 9 月 30 日（月） | 特別授業期間（1 年生・2 年生・3 年生） |
| 9 月 12 日（木） | Student Nurse 認定授与式 |
| 8 月 19 日（月）～ 9 月 20 日（金） | 基礎看護学実習Ⅱ・高齢者看護学実習Ⅰ・健やか親子実習（2 年生） |
| 9 月 30 日（月）<br>～2025 年 2 月 7 日（金） | 臨地実習（3 年生） |
| 9 月 24 日（火）～ 9 月 26 日（木） | 2 学期 WEB 履修登録期間 |
| 10 月 2 日（水） | 2 学期授業開始 |
| 10 月 12 日（土）～10 月 13 日（日） | 医学部大学祭（南風祭） |
| 10 月 22 日（火） | 合同慰霊祭（Covid-19 のため規模を縮小して開催） |
| 12 月 27 日（金） | 冬季休業開始 |
| 2025 年<br>1 月 6 日（月） | 冬季休業終了 |
| 1 月 7 日（火） | 2 学期授業再開 |
| 1 月 30 日（木）～ 2 月 5 日（水） | 2 学期試験期間 （1 年生・2 年生・3 年次編入生） |
| 2 月 6 日（木）～ 2 月 21 日（金） | コミュニティ共生実習・基礎看護学実習Ⅰ（1 年生） |
| 2 月 6 日（木）～ 2 月 28 日（金） | 特別授業期間 （1 年生・2 年生・3 年次編入生） |
| 3 月 1 日（土） | 学年末休業開始 |
| 3 月 24 日（月） | 卒業式・学位記授与式 |
| 3 月 31 日（月） | 学年末休業終了 |

（保）保健師資格関連科目，（看）看護師実践力育成科目

## 令和６年度　医学部看護学科　開講科目

令和６年度の看護学科開講科目は次の通りである.

| 区分 | 細目区分又は分野等 | 授業科目 | 年次 | 単位数(時間数) | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学での学びかた科目 | 大学基礎論 | 大学基礎論 | 1 | 2(30) | 石岡洋子/松本知津/濵田佳代子/吉村澄佳/★坂本智香 |
| | 学問基礎論 | 学問基礎論 | 1 | 2(30) | 石岡洋子/藤井千江美/奥谷文乃/松本智津/高橋美美/杉本加代/濵田佳代子/笹岡晴香/山脇京子/竹村多加/中島利佳/西井幸香/川村　尚美/寺下憲一郎/柴田優里絵/吉村澄佳 |
| | 課題探求実践セミナー | 課題探求実践セミナー | 1 | 2(30) | 大坂京子/下元理恵/高橋美美/山脇京子/佐藤美樹/竹村多加 |
| 国際コミュニケーション科目 | 基軸英語 | 大学英語入門 | 1 | 2(30) | ＊Daniel Brownson Ribble<br>＊Kemper Johanson |
| | | 英会話Ⅰ | 1 | 1(30) | ＊濱田沙織 |
| | | 英会話Ⅱ | 1 | 1(30) | ＊濱田沙織 |
| | 初修外国語・日本語 | 中国語（選） | 1 | 1(30) | ＊前田正也 |
| | | ドイツ語（選） | 1 | 1(30) | ＊塩見由利 |
| | | 韓国朝鮮語（選） | 1 | 1(30) | ＊徐　恩卿 |
| | | フランス語（選） | 1 | 1(30) | ＊安藤麻貴 |
| 数理・データサイエンス・AI科目 | | 情報とデータリテラシー | 1 | 2(30) | ＊栗原幸男/兵頭勇己 |
| | | データサイエンス入門 | 1 | 2(30) | ★理工学部教員 |
| 生きる力を育む科目 | 医療・健康・スポーツ | 環境保健学 | 1 | 1(15) | ＊吾妻　健 |
| | | スポーツ科学講義（選） | 1 | 2(30) | ★医学科教員 |
| | | スポーツ科学実技（選） | 1 | 1(30) | ★教育学部教員 |
| | キャリア形成 | 教育学・教育課程概論（選） | 1 | 2(30) | ★教育学部教員 |
| | | 教育心理学概論（選） | 1 | 2(30) | ★教育学部教員 |
| 視野を広げる科目 | 人文・社会科学系領域 | 生命倫理学 | 1 | 1(15) | 濵田佳代子/佐藤美樹 |
| | | 食生活論（選） | 1 | 1(15) | ＊鈴木麻希子 |
| | | 居住環境論（選） | 1 | 1(15) | ＊田島昌樹 |
| | | コミュニケーション論 | 1 | 1(15) | 高橋美美 |
| | | 家族社会学 | 1 | 1(15) | ＊若林良和 |
| | | 社会学 | 1 | 1(15) | ＊池谷江理子 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 基礎医学 | 身体のしくみ | 1 | 4(60) | 奥谷文乃 |
| | | 栄養学 | 1 | 1(15) | ★久保田賢/宮本美緒 |
| | | 生化学 | 1 | 1(15) | ★久保田賢 |
| | | 身体の働き | 1 | 2(30) | ＊溝渕俊二/並川努 |
| | | 感染と免疫 | 2 | 2(30) | ＊溝渕俊二/並川努 |
| | | 薬の効用と看護 | 2 | 2(30) | ＊溝渕俊二/並川努 |
| | | 看護と病態 | 2 | 2(30) | 並川努 |
| | | 病態と治療 | 3 | 2(30) | ＊溝渕俊二/並川努 |
| | 健康支援 | 看護情報論 | 1 | 1(30) | ＊栗原幸男 |
| | | 健康学習援助論 | 1 | 1(15) | 杉本加代 |
| | | 臨床心理学 | 2 | 1(15) | ＊池　雅之 |
| | | 保健医療福祉行政論 | 3 | 2(30) | ＊行貞伸二/奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和 |
| | | 公衆衛生看護学概論（選） | 2 | 2(30) | 齋藤美和/奥谷文乃/杉本加代 |
| | | 公衆衛生看護技術論Ⅰ（選） | 2 | 2(30) | 杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵 |
| | 基礎看護学 | 基礎看護学概論 | 1 | 2(30) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 生活援助論[演] | 1 | 2(60) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 看護倫理 | 1 | 1(15) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 看護理論 | 1 | 1(15) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 治療援助論 | 1 | 2(60) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | ヘルスアセスメント | 2 | 1(30) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 看護過程論 | 2 | 2(30) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | 1(45) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | 2(90) | 多田邦子/笹岡晴香/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | 地域・在宅看護学 | 地域看護学 | 1 | 2(30) | 川村尚美/齋藤美和/杉本加代/大坂京子/寺下憲一郎/柴田優里絵 |
| | | 在宅看護学概論 | 2 | 2(30) | 川村尚美/柴田優里絵 |
| | | 在宅看護援助論 | 3 | 2(60) | 川村尚美/柴田優里絵 |
| | | コミュニティ共生実習 | 1 | 1(45) | 川村尚美/齋藤美和/杉本加代/柴田優里絵 |
| | | 在宅看護学実習 | 3 | 2(90) | 川村尚美/柴田優里絵 |
| | | 在宅看護学実習Ⅱ | 4 | 1(45) | 川村尚美/柴田優里絵 |
| | 成人看護学 | 成人看護学概論 | 2 | 2(30) | 山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 成人看護援助論 | 2 | 2(60) | 佐藤美樹/竹村多加/下元理恵 |
| | がん看護学とターミナルケア | 3 | 2(30) | 山脇京子/下元理恵/竹村多加 |
| | 成人看護学急性期実習 | 3 | 2(90 | 山脇京子/竹村多加/下元理恵 |
| | 成人看護学慢性期実習 | 3 | 2(90) | 山脇京子/佐藤美樹/竹村多加 |
| 高齢者看護学 | 高齢者看護学概論 | 2 | 2(30) | 寺下憲一郎/西井幸香 |
| | 高齢者看護援助論 | 2 | 2(60) | 寺下憲一郎/西井幸香 |
| | 高齢者看護学実習Ⅰ | 2 | 1(45) | 寺下憲一郎/西井幸香 |
| | 高齢者看護学実習Ⅱ | 3 | 2(90) | 寺下憲一郎/西井幸香 |
| 小児看護学 | 小児看護学概論 | 2 | 2(30) | 松本智津 |
| | 小児看護援助論 | 3 | 2(60) | 松本智津 |
| | 健やか親子実習 | 2 | 1(45) | 松本智津 |
| | 小児看護学実習 | 3 | 2(90) | 松本智津 |
| 母性看護学 | 母性看護学概論 | 2 | 2(30) | 吉村澄佳 |
| | 母性看護援助論 | 3 | 2(60) | 吉村澄佳 |
| | 母性看護学実習 | 3 | 2(90) | 吉村澄佳 |
| 精神看護学 | 精神看護学概論 | 2 | 2(30) | 大坂京子/高橋美美 |
| | 精神看護援助論 | 3 | 2(60) | 大坂京子/高橋美美 |
| | 精神看護学実習 | 3 | 2(90) | 大坂京子/高橋美美 |
| 統合と実践 | 医療安全論 | 2 | 1(15) | 笹岡晴香/中野葉子/★久米他 |
| | 医療安全論Ⅱ | 4 | 1(15) | 佐藤美樹/川村尚美 |
| | 災害看護学[演] | 4 | 1(30) | 笹岡晴香/★西山謹吾/多田邦子/中野葉子/藤井千江美/中島利佳 |
| | 看護教育・管理学 | 4 | 1(15) | 中野葉子/中島利佳 |
| | 国際看護活動論 | 4 | 1(30) | 藤井千江美/＊吾妻健 |
| | 統合看護実習 | 4 | 2(90) | 看護学科教員 |
| 看護研究 | 保健統計論 | 3 | 2(30) | ★畠山豊/★野村與珠亜一国/★三谷慶太 |
| | 看護研究の基礎 | 3 | 1(30) | 大坂京子/＊溝渕俊二/齋藤美和/濵田佳代子/佐藤美樹 |
| | 卒業研究[演] | 4 | 2(60) | 看護学科教員 |
| 看護探求 | 実践看護英語(選必) | 2 | 1(15) | 大坂京子/＊Leah Bollos |
| | 看護先端技術(選必) | 2 | 1(15) | 大坂京子/下元理恵 |
| | 国際援助と保健資源(選必) | 2 | 1(15) | 藤井千江美 |
| | 国際援助と保健資源(選必) | 4 | 2(30) | ＊栗原幸男/奥谷文乃 |
| | 家族看護学(選必) | 2 | 1(15) | 吉村澄佳 |
| | 保健医療情報学(選必) | 3 | 2(30) | ＊栗原幸男 |
| | 原著講読(選必) | 4 | 2(30) | 大坂京子/奥谷文乃 |
| | 看護学特別研究(選必) | 2～4 | 1(15) | 看護学科教員 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 保健師資格関連科目 | 公衆衛生看護技術論Ⅱ | 2 | 1(15) | 杉本加代/齋藤美和 |
| | | | 疫学 | 3 | 2(30) | 奥谷文乃/杉本加代 |
| | | | 社会保障論 | 4 | 2(30) | ＊田中きよむ/杉本加代 |
| | | | 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ | 3 | 2(30) | 杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵 |
| | | | 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ | 3 | 2(30) | 杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵 |
| | | | 公衆衛生看護援助論Ⅲ | 4 | 2(30) | 杉本加代/齋藤美和/川村尚美 |
| | | | 公衆衛生看護学実習 | 4 | 5(225) | 杉本加代/奥谷文乃/齋藤美和/柴田優里絵 |
| | 養護教諭関連科目 | | 産業保健論（養護は選択） | 4 | 1(15) | 奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和 |
| | | | 学校保健論 | 3 | 1(15) | 奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和/柴田優里絵 |
| | | | 養護概説 | 2 | 2(30) | 柴田優里/齋藤美和/笹岡晴香/大坂京子 |
| | 看護師実践力育成科目 | | 地域生活者支援概論 | 4 | 2(30) | 齋藤美和/奥谷文乃/松本智津/寺下憲一郎/高橋美美/西井幸香/川村尚美 |
| | | | 地域生活者支援実習 | 4 | 3(135) | 寺下憲一郎/吉村澄佳 |
| | | | クリティカルケア看護概論 | 4 | 2(30) | 山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵 |
| | | | クリティカルケア看護実習 | 4 | 3(135) | 山脇京子/佐藤美樹/竹村多加/下元理恵 |
| 養護教諭関連科目 | | | 教職入門 | 1 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 教育制度論 | 1 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 特別支援教育入門 | 1 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 道徳教育 | 2 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 総合的な学習の時間・特別活動の指導法 | 2 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 教育の方法・技術 | 2 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 生徒指導（養護） | 2 | 2(30) | ＊藤田毅/齋藤美和 |
| | | | 教育相談 | 2 | 2(30) | ★教育学部教員　他 |
| | | | 養護実習(事前事後指導含む) | 4 | 5(225) | 笹岡晴香/齋藤美和/大坂京子/柴田優里絵/★全学教職委員会 |
| | | | 教職実践演習(養護) | 4 | 2(30) | 齋藤美和/笹岡晴香/大坂京子/柴田優里絵/★加藤誠之/★全学教職委員会 |

★：他学部・他学科・エルダープロフェッサー／＊：非常勤講師

※1・2・3年生は新カリキュラムの科目名，4年生以上は旧カリキュラムの科目名を記載.

## 卒業論文と研究成果の公表状況

1．令和 6 年度卒業生の卒業論文

4 年生が 17 グループに分かれて卒業研究に取り組んだ.

| № | 氏　名 | 指導教員 | 論　文　題　目 |
|---|---|---|---|
| 1 | 幾井聡美　佐原友恵　高村采花<br>藤田　祥 | 佐藤美樹 | 看護学生の自然災害への意識－命を守る行動について－ |
| 2 | 鈴木万琴　田村穂乃香　田村麻由<br>中村花菜 | 下元理恵 | 看護学生のボディイメージの認識とダイエット行動の関連 |
| 3 | 岩崎花連　水田伊織　石川祐里<br>山口綾香 | 竹村多加 | 災害時ボランティア活動に影響する要因 |
| 4 | 岡部ことは　手嶋悠景 | 大坂京子 | 看護学生のマスク着用に関する意識調査 |
| 5 | 西面栞里　土居弥生　永岡　心 | 高橋美美 | 看護系女子大学生の臨地実習における月経に伴う苦痛の実態について |
| 6 | 川村万里子　白根明日香<br>田間千晴　林　京水 | 松本智津 | 継続した内服を必要とする子どもの文献レビュー～内服が継続してできる要因とできない要因～ |
| 7 | 今津永賀　黒田菜々　武本琳賀<br>中島香奈　錦織美薫 | 吉村澄佳 | 児に対する養護者のコミュニケーションに影響する要因 |
| 8 | 井上沙耶　植竹紗世　川口央楓<br>野澤姫乃　吉居杏璃 | 濱田佳代子 | 乳幼児を持つ父親の育児ストレスに関する文献検討 |
| 9 | 大澤夏実　川上千陽　河野佳子<br>田中柚衣　三宅愛香里 | 石岡洋子 | 若年女性の痩せに関する文献検討－痩身願望に着目して－ |
| 10 | 熊野遼祐　田中桃花　中村心美<br>藤本知里 | 多田邦子 | 臨地実習における看護学生のコミュニケーション上の困難の特徴と乗り越え方に関する文献検討 |
| 11 | 酒井優衣　濱田佳乃　石元里奈<br>山本佳枝　立仙唯佳 | 笹岡晴香 | 養護教諭が行う救急処置技術の経験と自信の関係 |
| 12 | 竹内さくら　中条春貴<br>浜辺晃太朗　山中和幸　山本玲菜 | 中野葉子<br>中島利佳 | 災害時におけるＸ大学看護大学生の防災意識と災害自己効力感の関連について |
| 13 | 竹田未歩　濱田瑠菜　坂東祐希<br>松浦杏菜　吉田早希 | 齋藤美和 | 学校での生理用ナプキン提供の実態と学生が希望する支援 |
| 14 | 田代彩菜　玉木英里奈<br>弘瀬射眞斗　大原広大 | 奥谷文乃<br>藤井千江美 | 介護支援専門員の感じている個別避難計画の現状と今後の課題について |
| 15 | 清水陽太　佃　妃梨　中西胡桃<br>松﨑　雅 | 杉本加代<br>西井幸香 | Ａ大学医学部学生における献血行動の実態と骨髄バンクに対する関心との関連 |
| 16 | 岡﨑もえ　亀高　杏　近藤えこ<br>山田紗安弥 | 寺下憲一郎 | 領域別実習中の指導と看護学生の職業選択との関連～教員に限定して～ |
| 17 | 家本康正　竹原　瞳　谷本直優<br>矢野里緒菜　仁井田桃子 | 川村尚美<br>柴田優里絵 | 看護学生の臓器提供への意思と健康への意思との関連 |

2．令和 6 年度の卒業論文の公表状況

令和 6 年度卒業生

| |
|---|
| 立仙唯佳，酒井優衣，濵田佳乃，石元里奈，山本佳枝，笹岡晴香：救急処置技術について養護教諭が経験した困難な状況と希望する研修．第 19 回高知大学看護学会．2024．高知. |
| 近藤えこ，岡崎もえ，亀高　杏，山田紗安弥，寺下憲一郎：領域別実習中の指導による看護学生の気持ちと職業選択との関連．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知. |
| 竹内さくら，中条晴貴，浜辺晃太郎，山中和幸，山本玲菜：災害時における A 大学看護大学生の防災意識と災害自己効力感の関連．第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知. |

令和 5 年度卒業生

| |
|---|
| 細川欣寿，中野葉子，後藤　歩，小原桃果，和太　優，梶野愛里菜，横谷知也（2024）：南海トラフ地震被害想定地域に居住する 4 年生大学看護学生の防災意識の認識．高知大学看護学会誌．18（1）15-24. |

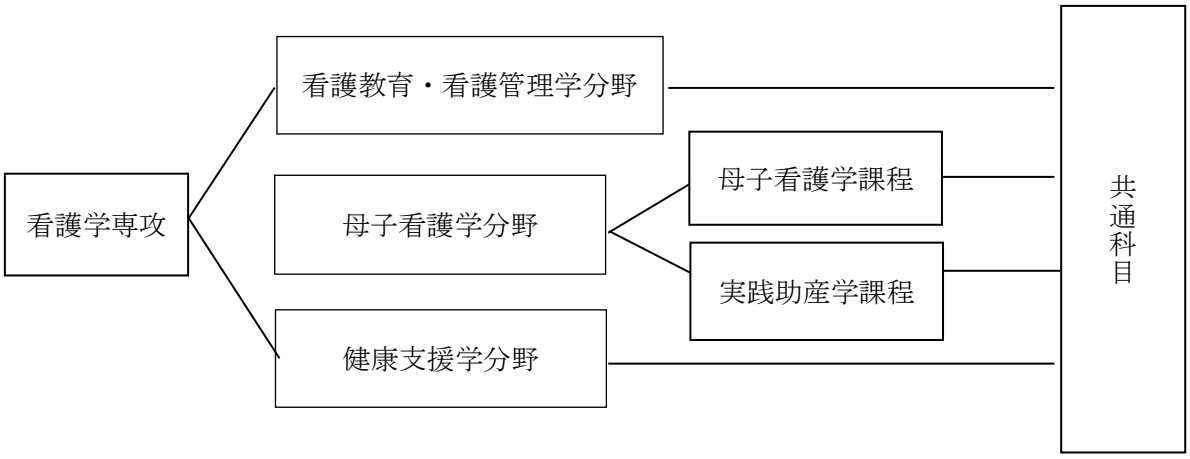
## 総合人間自然科学研究科看護学専攻（修士課程）

健康で文化的な生活を送るという国民の権利を支援することが医療者には求められている．看護学専攻においては，高知大学の教育理念に鑑み「現場主義」を重視し,社会の一員として求められるソーシャルスキルを基盤とした，課題解決能力を身につけた人間力豊かな人材を育成する．さらに，医療の場を含む日常生活の場で人間にとって最も重要な健康の増進を目指しつつ，生活者の視点で包括的な支援を行う高度に専門的な知識・技能を身につけた論理的・創造的な看護の実践者・看護学教育者・看護管理者の育成を目指している．

看護学専攻には，看護師養成施設等の看護教員，生涯教育や管理的業務に従事する看護実践者を養成するための「看護教育・看護管理学分野」，母子の健康および生活の中で或は施設における QOL 向上のための看護実践者を養成するための「母子看護学分野」，全ての人を対象として，看護・生活支援・健康増進を行う看護師・保健師・養護教諭の学ぶ場を提供し，社会をリードする実践者・研究者の育成するための「健康支援学分野」を置いている．

母子看護学分野には，母子看護学課程と実践助産学課程の二つの課程を置き，実践助産学課程では助産師の国家試験受験資格の取得とともに高度専門職業人（助産師）の育成を目的としている．

また，それぞれの分野における看護学の視野を広げつつ，看護学において基盤とすべき学問と将来の看護実践を支援する情報処理技術などを習得させるための共通科目を設けている．



## 2024 年度　看護学専攻　学年歴・行事

| 日　　程 | 行　　事 |
|---|---|
| 2024 年<br>4 月 1 日（月） | 学年始め |
| 4 月 3 日（月） | 入学式，新入生オリエンテーション |
| 4 月 8 日（金） | 履修届提出締切（新入生） |
| 4 月 12 日（金） | 第 1 学期授業開始 |
| 8 月 8 日（木） | 夏季休業開始 |
| 8 月 31 日（土） | 夏季休業終了 |
| 9 月 20 日（金） | 秋季修了式（学位記授与式） |
| 9 月 30 日（月） | 第 1 学期授業終了 |
| 10 月 1 日（日） | 創立記念日，学位申請書受付開始（2 年次生） |
| 10 月 2 日（月） | 第 2 学期授業開始 |
| 10 月 12 日（土），13 日（日） | 医学部大学祭 |
| 10 月 22 日（火） | 合同慰霊祭 |
| 12 月 20 日（金） | 学位申請書類提出締切（2 年次生） |
| 12 月 27 日（水） | 冬季休業開始 |
| 2025 年<br>1 月 6 日（月） | 冬季休業終了 |
| 1 月 24 日（金） | 学位論文研究発表会（2 年次生） |
| 2 月 28 日（金） | 第 2 学期授業終了 |
| 3 月 1 日（金） | 学年末休業開始 |
| 3 月 24 日（月） | 修了式（学位記授与式） |
| 3 月 31 日（月） | 学年末休業終了 |

## 令和６年度　看護学専攻　開講科目

令和６年度の看護学専攻の開講科目は次の通りである.

| 区分 | 授業科目 | 年次 | 単位数 | | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | |
| 共通科目 | 健康情報論　＊ | 1 | 2 | | ☆栗原幸男 |
| | 保健統計論　＊ | 1 | 2 | | 奥谷文乃/齋藤美和/川村尚美 |
| | 健康環境論　＊ | 1 | 2 | | 奥谷文乃/並川　努/西井幸香 |
| | 看護研究論　＊ | 1 | 2 | | 杉本加代/多田邦子/笹岡晴香/寺下憲一郎/濵田佳代子/齋藤美和/他 |
| | 看護理論　＊ | 1 | 2 | | 山脇京子/佐藤美樹/竹村多加 |
| | 看護倫理　＊ | 1 | 2 | | 佐藤美樹/下元理恵/竹村多加/田中理子 |
| | ペアレンティング論　＊ | 1 | 2 | | 石岡洋子/松本智津 |
| | 看護英語　＊ | 1 | 2 | | 大坂京子/藤井千江美 |
| 特別研究科目 | 特別研究（研究計画立案） | 1・2 | | 2 | 各指導教員 |
| | 特別研究（実験・調査） | 1・2 | | 2 | 〃 |
| | 特別研究（ゼミナール） | 1・2 | | 2 | 〃 |
| | 特別研究（論文作成） | 1・2 | | 2 | 〃 |
| | 特別研究（研究発表） | 1・2 | | 2 | 〃 |
| | 課題研究 | 1・2 | | 6 | 〃 |
| 看護教育・看護管理学分野科目 | 看護教育・管理学特論Ⅰ | 1 | 2 | | 笹岡晴香/多田邦子/柳林信彦 |
| | 看護教育・管理学特論Ⅱ | 1 | 2 | | 中野葉子 |
| | 看護教育・管理学演習Ⅰ | 1 | | 2 | 笹岡晴香/多田邦子/他 |
| | 看護教育・管理学演習Ⅱ | 1 | | 2 | 中野葉子 |
| 母子看護学分野科目 | 母子看護学特論Ⅰ | 1 | 2 | | 石岡洋子/濵田佳代子/松本智津/吉村澄佳 |
| | 母子看護学特論Ⅱ | 1 | 2 | | 松本智津/濵田佳代子/吉村澄佳/石岡洋子/他 |
| | 母子看護学演習 | 1 | | 4 | 石岡洋子/濵田佳代子/松本智津/吉村澄佳 |
| 健康支援学分野科目 | 生涯生活支援学特論 | 1 | 2 | | 佐藤美樹/山脇京子/下元理恵/竹村多加 |
| | 生涯生活支援学演習 | 1 | | 2 | 佐藤美樹/下元理恵/竹村多加 |
| | 地域健康支援学特論 | 1 | 2 | | 大坂京子/寺下憲一郎/高橋美美/西井幸香 |
| | 地域健康支援学演習 | 1 | | 2 | 大坂京子/寺下憲一郎/高橋美美/西井幸香 |
| | 公衆衛生看護学特論 | 1 | 2 | | 杉本加代/奥谷文乃/齋藤美和/川村尚美/柴田優里絵 |
| | 公衆衛生看護学演習 | 1 | | 2 | 奥谷文乃/杉本加代/齋藤美和/川村尚美/柴田優里絵 |

＊：開放科目（他専攻学生の履修を認める科目），　☆：非常勤講師

| 区分 | 授業科目 | 年次 | 単位数 | | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | |
| 基礎助産学科目 | 助産学概論 | 1 | 1 | | 石岡洋子 |
| | ウイメンズヘルス特論 | 1 | 2 | | 濵田佳代子 |
| | 母子の健康科学特論 | 1 | 1 | | 濵田佳代子/山岸由佳/笹部衣里/浜田幸広/他 |
| | リプロダクティブ・ヘルス特論 | 1 | 2 | | 濵田佳代子/他 |
| 助産学専門科目 | 周産期管理特論 | 1 | 2 | | 濵田佳代子/奥谷文乃/畠山　豊/兵頭勇己/他 |
| | 妊娠期診断・技術学特論 | 1 | 2 | | 石岡洋子/他 |
| | 分娩期診断・技術学特論 | 1 | 2 | | 石岡洋子 |
| | 産褥期診断・技術学特論 | 1 | 1 | | 濵田佳代子 |
| | 新生児・乳児期診断・技術学特論 | 1 | 1 | | 濵田佳代子/松本智津/他 |
| | 助産診断・技術学演習 | 1 | | 1 | 石岡洋子/濵田佳代子/他 |
| | 助産過程展開演習 | 1 | | 1 | 石岡洋子/濵田佳代子 |
| | 地域助産活動論 | 1 | 1 | | 濵田佳代子/石岡洋子/杉本加代/藤井千江美/他 |
| | 地域助産活動論演習（助産道場） | 1・2 | | 1 | 石岡洋子 |
| | 助産管理学 | 1 | 1 | | 石岡洋子/他 |
| | 助産管理学演習 | 1・2 | | 1 | 石岡洋子/大坂京子/高橋美美/他 |
| 助産学実践科目 | 助産学実習Ⅰ | 1・2 | | 1 | 濵田佳代子/石岡洋子 |
| | 助産学実習Ⅱ | 1・2 | | 7 | 石岡洋子/濵田佳代子 |
| | 助産学実習Ⅲ | 1・2 | | 1 | 濵田佳代子/石岡洋子 |
| | 地域助産学実習 | 1・2 | | 2 | 石岡洋子/濵田佳代子 |

## 修士論文と研究成果の公表状況

1．令和 6 年度修了生の修士論文を以下に示す.

| 氏　名 | 主査<br>副査 | 論　文　題　目 |
|---|---|---|
| 髙橋智乃 | 山脇京子<br>大坂京子<br>石岡洋子 | 乳がん罹患後リスク低減卵管卵巣摘出術を行った患者の自己概念の再構築を支援する看護師の体験 |
| 安岡美優 | 石岡洋子<br>松本智津<br>笹岡晴香 | 知的障害者の性教育に関する文献検討 |
| 赤松利帆 | 石岡洋子<br>杉本加代<br>寺下憲一郎 | HPV ワクチン接種行動の促進・阻害要因に関する文献検討 |
| 植野千鶴子 | 奥谷文乃<br>杉本加代<br>川村尚美 | 某航空機部品製造業における COVID-19 流行下での体重変動と生活習慣の特徴の関連性について |
| 西森郁代 | 奥谷文乃<br>寺下憲一郎<br>並川　努 | 骨折リエゾンサービス活動の実態調査 |
| 井元理佳子 | 奥谷文乃<br>多田邦子<br>齋藤美和 | 初めての中間看護管理者に昇進時の思いについて～初めての中間管理者に昇進時の不安と自己効力感との関連性～ |
| 大地美和 | 奥谷文乃<br>寺下憲一郎<br>杉本加代 | 特別養護老人ホームにおけるアドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning: ACP）の実態～意思決定時の他職種の関わり～ |
| Urmi Saha | 奥谷文乃<br>大坂京子<br>並川　努 | Assessment of Basic Knowledge Regarding Alzheimer's Disease Among Adult Residents at Kochi in Japan: A Correlation among AD Knowledge, Lecanemab Familiarity and Anixiety<br>（高知県住民のアルツハイマー病に関する基礎知識の評価：知識・レカネマブの認知度・不安の関連について） |
| 田村麻美 | 奥谷文乃<br>笹岡晴香<br>齋藤美和 | 5 年一貫看護師養成課程での生徒の社会人基礎力育成における授業実践の工夫の実態 |
| 吉井英美 | 中野葉子<br>大坂京子<br>石岡洋子 | アフターコロナにおける入院・外来患者と一般市民の医療サービスの認識の特徴 |
| 津村早保 | 大坂京子<br>中野葉子<br>松本智津 | 高齢心不全患者のセルフマネジメント能力に対する看護師のかかわり |

2．令和 6 年度以前の修了生の研究成果公表状況

令和 6 年度修了生

| |
|---|
| 吉井英美，中野葉子，横谷知也：アフターコロナにおける患者と一般人の医療サービスの認識．第 19 回医療の質・安全学会．2024．神奈川. |
| 吉井英美，中野葉子，横谷知也：アフターコロナにおける患者と一般人の医療サービスの認識．第 24 回 KMS Research Meeting.2024．高知. |

令和 5 年度修了生

関　恵理, 笹岡晴香 : 中規模病院の一般外来に就業する看護師の外来所属勤務年数による職業経験の質の違い．第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会．2024．福岡.

令和 3 年度修了生

池澤美和，齋藤美和 : 認定看護師の資格を持つ副看護師長・主任のレジリエンス．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本.

## Ⅱ．入学・卒業・修了の状況

### 1．医学部看護学科

#### 入学者数

（人）

| 年度 | | 一般入学者数 | | | 3 年次編入学者数 | | | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 県内 | 県外 | 計 | 県内 | 県外 | 計 | 県内計 | 県外計 | 合計 |
| 2024 年度 | 男 | 0 | 9 | 9 | 0 | 1 | 1 | 0 | 10 | 10 |
| | 女 | 13 | 38 | 51 | 2 | 2 | 4 | 15 | 40 | 55 |

#### 卒業者数

（人）

| 年度 | 卒業者数 | | |
|---|---|---|---|
| | 女 | 男 | 計 |
| 2024 年度 | 62 | 10 | 72 |

#### 卒業生進路状況

（人）

| 年度 | 保健師 | 看護師 | 進学 | 教職 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2024 年度 | 1<br>(1) | 62<br>(20) | 2<br>(1) | 5<br>(4) | 2<br>(1) | 72<br>(27) |

（ ）：高知県内

#### 教員免許等の取得状況

（人）

| 年度 | 看護科教員免許 | | | 養護教諭Ⅰ種免許 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 取得者数 | | 合計 | 取得者数 | | 合計 |
| | 男 | 女 | | 男 | 女 | |
| 2024 年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 14 |

## 2. 大学院看護学専攻修士課程

### 入学者数

（人）

| 年度 | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|
| | 女 | 男 | 計 |
| 2024 年度 | 14 | 0 | 14 |

### 修了者数

（人）

| 年度 | 修了者数 | | |
|---|---|---|---|
| | 女 | 男 | 計 |
| 2024 年度 | 11 | 0 | 11 |

### 修了生進路状況

（人）

| 年度 | 保健師 | 助産師 | 看護師 | 教員 | 進学 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2024 年度 | 1 | 2 | 5 | 2 | 0 | 1 | 11 |

## Ⅲ．教職員組織構成

### 1．高知大学教育研究部医療学系看護学部門教員および事務職員

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 |
|---|---|---|---|
| 石岡洋子<br>大坂京子<br>奥谷文乃<br>多田邦子<br>山脇京子<br>（～9/30）<br>並川　努 | 佐藤美樹<br>笹岡晴香<br>杉本加代<br>寺下憲一郎<br>中野葉子<br>濵田佳代子<br>松本智津 | 川村尚美<br>齋藤美和<br>下元理恵<br>高橋美美<br>竹村多加<br>吉村澄佳 | 浦田美知<br>（11/1～）<br>柴田優里絵<br>中島利佳<br>西井幸香<br>藤井千江美<br>山村真智子<br>（1/1～） |

講座別

| 看護学科長 | | 大坂京子 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講座 | 領域 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 |
| 基礎看護学 | 基礎看護学 | 多田邦子 | 笹岡晴香<br>中野葉子 | | 中島利佳<br>藤井千江美 |
| 臨床看護学 | 成人看護学 | 山脇京子<br>（～9/30） | 佐藤美樹 | 下元理恵<br>竹村多加 | |
| | 臨床看護学 | 並川　努 | | | |
| | 小児看護学 | | 松本智津 | | 山村真智子<br>（1/1～） |
| | 母性看護学 | | | 吉村澄佳 | （中島利佳） |
| | 助産学 | 石岡洋子 | 濵田佳代子 | | 浦田美知<br>（11/1～） |
| | 精神看護学 | 大坂京子 | | 高橋美美 | |
| 地域看護学 | 高齢者看護学 | | 寺下憲一郎 | | 西井幸香 |
| | 公衆衛生看護学 | 奥谷文乃 | 杉本加代 | 齋藤美和 | |
| | 在宅看護学 | | | 川村尚美 | 柴田優里絵 |

| 看護学科事務 | 森本貴美恵 | 山脇留奈 |
|---|---|---|

## 2. 総合人間自然科学研究科修士課程看護学専攻教員および事務職員

分野別

| 看護学科長 | | 奥谷文乃 | | |
|---|---|---|---|---|
| 分野 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 |
| 看護教育・管理学 | 多田邦子 | 笹岡晴香<br>中野葉子 | | 中島利佳<br>藤井千江美 |
| 母子看護学 | 石岡洋子 | 濵田佳代子<br>松本智津 | 吉村澄佳 | 浦田美知<br>（11/1～）<br>中島利佳<br>山村真智子<br>（1/1～） |
| 健康支援学 | 大坂京子<br>奥谷文乃<br>山脇京子<br>（～9/30）<br>並川　努 | 佐藤美樹<br>杉本加代<br>寺下憲一郎 | 川村尚美<br>齋藤美和<br>下元理恵<br>高橋美美<br>竹村多加 | 柴田優里絵<br>西井幸香 |

| 看護学科事務 | 森本貴美恵 | 山脇留奈 |
|---|---|---|

## Ⅳ．領域別の教育・研究・社会活動

### 基礎看護学講座

基礎看護学領域

〔教員名〕教授　：多田邦子
　　准教授：笹岡晴香
　　准教授：中野葉子
　　助教　：藤井千江美
　　助教　：中島利佳

【教育活動】

基礎看護学では，看護実践の基盤を形成することをねらいとして，看護とはなにか，その目的や看護の対象となる人々への理解ならびに看護の方法論などについて，必要な知識や技術を教授している．学部教育では，対象に看護の理念や役割などを教授し，看護者として看護の考え方を形成すると共に，看護実践の方法論となる技術について「生活援助技術論」において，身の回りの援助技術から治療援助，看護過程やフィジカルアセスメントなど，原理を学びその技を身につけるように教授している．

また，看護情報論や医療安全，災害看護，国際看護，看護教育・看護管理などについて，対象者の安全を守ると共に効果的な指導のあり方について教授している．

大学院では，看護教育・看護管理学分野に属し，よりよい看護を実践するための看護教育・管理のあり方について大学院生と共に学問への理解を深めている．

【研究活動】

○多田邦子

看護領域における医療器具等の研究

○笹岡晴香

排泄のケアに関する研究

寄生虫感染症予防教育に関する研究

○中野葉子

医療サービスの質に関する研究

医療安全の組織風土に関する研究

看護おけるケアリングとしての技術力理論に関する研究

ケアリング教育の開発に関する研究

○藤井千江美

アフリカの農村地域における母子の健康増進に向けたしくみ作りに関する研究

○中島利佳

医療サービスの質と看護師のモチベーションに関する研究

災害看護シミュレーション教育に関する研究

情報活用能力と看護実践能力に関する研究

【社会活動】

〇多田邦子

－講義－

・認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修「質管理Ⅰ」高知県看護協会 （2024 年 7 月 6 日，7 月 20 日）

－社会活動－

・高知女子大学看護学会誌査読委員

・四国看護研究学会評議員

○笹岡晴香

－講義－

・学校法人龍馬学園龍馬看護ふくし専門学校「レポートの書き方の基本」（2024 年 10 月 7 日），「ケースレポートの書き方」（2024 年 1 月 14 日）

－その他－

・第 19 回 高知大学看護学会講演「高知大学医学部看護学科を卒業して」（2024 年 11 月 9 日）

○中野葉子

－講義－

・地域医療を支える四国病院経営プログラム「看護管理学」

－社会活動－

・高知県看護協会認定看護管理者教育運営委員会　委員

・准講師会講師派遣事業　中土佐町地域包括支援センター「若々しくいるためのアンチエイジング」（2024 年 8 月 9 日）

－その他－

・高知大学医学部准教授講師会　副会長

・おこうだより 2024 特集「講師兼総合防災訓練に参加して」

・KMS Research Meeting　審査員

○藤井千江美

－講義－

・高知開成専門学校「国際看護学」（2024 年 11 月 13 日, 20 日）

・松下看護専門学校「国際協力」（2024 年 11 月 26 日，12 月 2 日，12 月 10 日）
・聖バルナバ助産師学院「地域母子保健」（2024 年 11 月 30 日）
・龍馬学園「アフリカの食文化」（2024 年 10 月 30 日）
・高知高等学院「アフリカについて」（2024 年 12 月 12 日）
－その他－
・NPO 法人 HANDS（Health and Development Service）理事兼シエラレオネプロジェクト担当

○中島利佳
－その他－
・高知大学看護学同窓会　記念品係

【研究業績】
－論文－
1．細川欣寿，中野葉子，後藤　歩，小原桃果，和太　優，梶野愛里菜，横谷知也（2024）：南海トラフ地震被害想定地域に居住する A 大学看護学生の防災意識の認識．高知大学看護学会誌．第 18 巻（1）．15-24.
2. Yoko Nakano, Tomoya Yokotani, Kyoko Osaka: Systematic Review on Healthcare Services in the Post-COVID-19 Era. Journal of Nursing Research Society of Kochi University. 18(1). 3-14. 2024.

－学会発表－
1. 立仙唯佳，酒井優衣，濵田佳乃，石元里奈，山本佳枝，笹岡晴香：救急処置技術について養護教諭が経験した困難な状況と希望する研修．第 19 回高知大学看護学会．2024．高知.
2. 関　恵理，笹岡晴香：中規模病院の一般外来に就業する看護師の外来所属勤務年数による職業経験の質の違い．第 26 回日本医療マネジメント学会学術総会．2024．福岡.
3. Yoko Nakano, Tomoya Yokotani, Rika Nakajima: The Relationship Between Disaster Prevention Awareness and Disaster Self-Efficacy Among Japanese Nursing University Students in Areas Expected to be Affected by the Nankai Trough Earthquake. The 15th Asian Pacific Conference on Disaster Medicine. APCDM. 2024. South Korea.
4. 中野葉子，横谷知也，中島利佳，吉井英美：アフターコロナにおける急性期医療機関に従事する看護師の医療サービスに対する認識．第 19 回医療の質・安全学会．2024．横浜.
5. 中野 葉子，吉井 英美，横谷 知也：アフターコロナにおける患者と一般人の医療サービスの認識．第 19 回医療の質・安全学会．2024．横浜.

6. Rika Nakajima, Yoko Nakano, Tomoya Yokotani: Examining the Effects of Comprehensive Disaster Training on Disaster Prevention Consciousness and Disaster Self-Efficacy in Japanese Nursing Students. The 15th Asian Pacific Conference on Disaster Medicine. 2024. South Korea.
7. 中島利佳，中野葉子，横谷知也，吉井英美：アフターコロナにおける急性期医療機関に従事する看護師の年齢とワークモチベーションの関係について．第 19 回医療の質・安全学会．2024．横浜.
8. 中島利佳，中野葉子，横谷知也：アフターコロナにおける看護師の 医療サービスの特徴とワークモチベーションとの関連．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本.
9. Yoko Nakano, Tomoya Yokotani, Rika Nakajima: The Relationship Between Disaster Prevention Awareness and Disaster Self-Efficacy Among Japanese Nursing University Students in Areas Expected to be Affected by the Nankai Trough Earthquake．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.
10. 中野葉子，横谷 知也，中島利佳，吉井 英美：アフターコロナにおける急性期医療機関に従事する看護師の医療サービスに対する認識．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.
11. 中野葉子，吉井英美，横谷知也：アフターコロナにおける患者と一般人の医療サービスの認識．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.
12. Rika Nakajima, Yoko Nakano, Tomoya Yokotani: Examining the Effects of Comprehensive Disaster Training on Disaster Prevention Consciousness and Disaster Self-Efficacy in Japanese Nursing Students．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.
13. 中島利佳，中野葉子，横谷知也，吉井英美：アフターコロナにおける急性期医療機関に従事する看護師の年齢とワークモチベーションの関係について．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.
14. 中島利佳，中野葉子，横谷 知也：アフターコロナにおける看護師の 医療サービスの特徴とワークモチベーションとの関連．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知.

**成人看護学領域**

〔教員名〕教授　：山脇京子
准教授：佐藤美樹
講師　：竹村多加
講師　：下元理恵

【教育活動】

成人看護学では，成人期の発達課題・健康障害，健康や生活の再構築など成人期の特徴を理解すると共に，看護展開に必要な看護理論の理解や，根拠に基づいた看護の実際と臨床看護技術の習得を目指し教授した.

学部教育では，教養科目の「生命倫理学」,[学問基礎論」,「課題探求実践セミナー」,「健康」，専門教育として「成人看護学概論」,「成人看護援助論」,「がん看護学とターミナルケア」,「医療安全Ⅱ」および「成人看護学急性期実習」「成人看護学慢性期実習」，旧カリキュラム最終年となった選択コースである看護師実践能力育成科目の「クリティカルケア看護概論」,「クリティカルケア看護実習」に関わった．また，卒業研究指導では，研究計画から実施，中間発表会，論文作成までの一連のプロセスを通して指導を行った.

大学院教育では,「生涯生活支援学特論」,「生涯生活支援学演習」,「看護理論」,「看護倫理」を教授すると共に，生涯生活支援学専攻の院生への研究指導や論文指導を行った.

【研究活動】

○山脇京子

慢性疾患患者の QOL，看護教育に関する研究に取り組んだ.

○佐藤美樹

地域で暮らす高齢者の健康，睡眠，QOL に関する研究に関する研究に取り組んだ.

○竹村多加

成人看護学実習の看護教育に関する研究に取り組んだ.

○下元理恵

慢性心不全に関する研究，看護教育に関する研究に取り組んだ.

【社会活動】

○山脇京子

－講義－

・高知県立高知東高等学校　看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）（2024 年 9 月 6 日，9 月 11 日，9 月 13 日，9 月 20 日）

－社会活動－

・高知県看護教育研究会　学習会開催（2024 年 6 月 8 日）

○佐藤美樹

－講義－

・高知県立高知東高等学校 看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）（2024 年 9 月 25 日，10 月 2 日，10 月 9 日，10 月 23 日，11 月 6 日，11 月 20 日）

－社会活動－

・日本看護系大学協議会（JANPU）災害支援委員

・インターナショナル Nursing Care Research　評議委員，査読委員

・高知県看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員

○下元理恵

－その他－

・KMS Research Meeting　審査員

○竹村多加

－講義－

・清和准看護学院「母性看護，女性生殖器疾患の看護」（2025 年 1 月 11 日，1 月 18 日，1 月 25 日，2 月 1 日，2 月 8 日）

－社会活動－

・高知県看護教育研究会　連絡係/役員（書記等）（2024 年 6 月まで）

・高知県看護協会看護研究倫理審委員会　委員

・高知大学看護学同窓会　役員（会計）（2024 年 6 月～）

【研究業績】

－論文－

1. Reiko Kamoi, Yoshihiro Mifune, Krishan Soriano, Ryuichi Tanioka, Risa Yamanaka, Hirokazu Ito, Kyoko Osaka, Hidehiro Umehara, Rie Shimomoto, Leah Anne Bollos, Rick Yiu Cho Kwan, Itsuro Endo, Sr. Sahlee Palijo, Katsuhiro Noguchi, Kazushi Mifune, Tetsuya Tanioka (2024): Association Between Dynapenia/Sarcopenia, Extrapyramidal Symptoms, Negative Symptoms, Body Composition, and Nutritional Status in Patients with Chronic Schizophrenia. Healthcare. 13(1). Doi: 10.3390/healthcare13010048.

－学会発表－

1. 竹村多加，下元理恵，佐藤美樹：コロナ禍で実習に制限を受けた看護学生の看護観．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本．
2. Rie Shimomoto, Kyoko Osaka: Perception of Personal Growth of Japanese Nursing

Students Affected by COVID-19: Comparison of Students' Perception of Personal Growth of Clinical Competence in FY 2022 and 2023. 5th International Conference Technological Competency as caring Nursing and Health Sciences 2024. Philippines.

**臨床看護学領域**

〔教員名〕教授：並川　努

【教育活動】

1. 臨床看護学では，専門基礎科目である 1 年生の「身体の働き」15 コマ，2 年生の「薬の効用と看護」15 コマ，「看護と病態」15 コマ，「感染と免疫」15 コマ，そして 3 年生の「病態と治療」15 コマなどの共通専門科目を担当している．1 年生には，「解剖実習」と「手術見学と集中治療室の見学」を行った．「看護学特別研究」（通年），「大学基礎論」，「成人看護学援助論」の 1 コマを担当した．
2. 看護学専攻修士課程では，「看護研究論」で 2 コマ，「健康環境論」で 4 コマを担当した．
3. 医学科においては，医学科 3 年生に，「外科学総論」を 1 コマ，「臨床腫瘍学総論」を 1 コマ，「医療倫理 II」を 1 コマ，医学科 4 年生に「消化器病学(内科学・外科学)」2 コマを担当した．
4. 黒潮圏総合科学専攻では，「環境健康特論」を開講し講義を行った．

【研究活動】

1. 日本蛍光ガイド手術研究会公認の「絞扼性腸閉塞における ICG 蛍光法による血流評価」に関する多施設共同前向き観察研究を策定し，2024 年 1 月から当院を含めて全国の施設から症例登録を開始した．
2. 様々な電磁波の波長帯の特性を活かして光線技術を駆使した診断，治療が外科領域においても開発応用されてきている．5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断やインドシアニングリーンを用いた近赤外光の照射により励起され近赤外光を発する蛍光特性を活用した蛍光ガイド下手術により，近赤外光の高い生体透過性を利用することで生体深部情報を非侵襲的に観察することができるようになる．これらの光線医療技術を併用することで，安全な低侵襲手術を実施し診断精度および治療成績の向上を目指した研究を推進している．
3. 生存期間延長を目標とした癌薬物治療を行う際に，限られた薬剤を変更して治療継続していくことは重要であるが，その適切なタイミングの判断は腹膜播種の多い胃癌治療においては困難なことも多い．免疫関連有害事象の適切な制御とともに，全身炎症栄養学的指標がその病態，病状進行判断の補助となることを示し，日本外科学会 Surgery Today Citation Award を受賞した．
4. 手術や癌治療に関わる分野で JACCRO，OGSG，JFMC の各施設とともに臨床研究を継続的に行っている．

【社会活動】

1. World Journal of Gastroenterology, Editorial Board

2. Oncology Letters, Editorial Board
3. Molecular and Clinical Oncology, Editorial Board
4. Biomedical Reports, Editorial Board
5. Japanese Journal of Clinical Oncology, Editorial Board
6. 日本消化器内視鏡学会雑誌　査読委員
7. 消化器外科専門医の心得　査読委員
8. 第 33 回日本消化器内視鏡学会四国支部セミナー会長(2024 年 1 月 21 日)
9. 日本臨床分子形態学会　理事
10. 日本消化器内視鏡学会　社団評議員
11. 日本臨床外科学会　評議員
12. 日本消化器病学会　評議員
13. 日本内視鏡外科学会　評議員
14. 日本消化器外科学会　評議員
15. 日本癌病態治療研究会　世話人
16. 日本人工臓器学会　評議員
17. 日本蛍光ガイド手術研究会　世話人
18. 日本胃癌学会　代議員
19. 胃外科・術後障害研究会　世話人
20. 日本レーザー医学会　評議員
21. 日本ヒト細胞学会　評議員
22. 日本臨床栄養代謝学会　学術評議員
23. 日本腹部救急医学会　評議員
24. 日本外科代謝栄養学会　評議員
25. 日本創傷治癒学会　評議員
26. 日本人工臓器学会論文賞(広領域)選出委員会　委員
27. 日本人工臓器学会診療報酬対策委員会　委員
28. 日本臨床分子形態学会　広報委員
29. 日本消化器外科学会　消化器外科専門医試験問題作成委員会　委員
30. 高知学芸高校訪問進学ガイダンス（2024 年 7 月 26 日）

【研究業績】

－論文－

1. Namikawa T, Araki K, Utsunomiya M, Yokota K, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K, Seo S (2024);Laparoscopic partial splenectomy in a patient with splenic hemangioma after distal gastrectomy for a neuroendocrine tumor. Clin J Gastroenterol. 17(1). 29-33. doi: 10.1007/s12328-023-01868-w.
2. Namikawa T, Tanaka T, Utsunomiya M, Yokota K, Munekage M, Maeda H,

Kitagawa H, Kurioka Y, Satake H, Kobayashi M, Hanazaki K, Seo S (2024):Gastric cancer with Fanconi anemia in adolescent and young adult patient diagnosed by comprehensive genome profiling using next-generation sequencing. Clin J Gastroenterol. 17(1).12-17. doi: 10.1007/s12328-023-01886-8.

3. Namikawa T, Aida M, Utsunomiya M, Yokota K, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K, Seo S (2024): Laparoscopic resection of a gastric duplication cyst located near the esophagogastric junction. Clin J Gastroenterol. 17(2). 222-227. doi: 10.1007/s12328-023-01916-5.
4. Namikawa T, Yokota K, Munekage M, Maeda H, Kitagawa H, Okamoto K, Uchida K, Sato T, Kobayashi M, Hanazaki K, Seo S (2024):Robot-assisted Surgery for Gastrointestinal Cancer Using Indocyanine Green Conjugated Endoscopic Marking Clip Under Firefly Fluorescence Imaging. Anticancer Res. 44(9). 3937-3943. doi: 10.21873/anticanres.17222.
5. Kitagawa H, Yokota K, Namikawa T, Maeda H, Kobayashi M, Seo S (2024): A case of perioperative artificial pancreas therapy for a patient with esophageal cancer with type 1 diabetes. J Artif Organs. 27(3). 311-315. Doi. 10.1007/s10047-023-01423-x
6. Kitagawa H, Yokota K, Utsunomiya M, Tanaka T, Namikawa T, Kobayashi M, Seo S (2024): Benefit of a laparoscopic jejunostomy feeding catheter insertion to prevent bowel obstruction associated with feeding jejunostomy after esophagectomy. Sci Rep. 14(1). 4298. doi: 10.1038/s41598-024-55020-w
7. Yamamoto N, Kitagawa H, Orihashi K, Yokota K, Namikawa T, Seo S (2024): Blood flow evaluation of reconstructed gastric tube in esophageal surgery using near-infrared imaging and retrospective time-intensity curve analysis. Langenbecks Arch Surg. 409(1). 90. doi: 10.1007/s00423-024-03284-1.
8. Yokota K, Kitagawa H, Namikawa T, Utsunomiya M, Seo S (2024): A case of delayed necrosis of reconstructed colon after esophagectomy. Clin J Gastroenterol. 17(5). 799-802. doi: 10.1007/s12328-024-02009-7.
9. Mibu K, Kitagawa H, Namikawa T, Maeda H, Fujisawa K, Munekage M, Yamasaki F, Yamamoto N, Seo S (2024): Hanazaki K. Usefulness of an interprofessional work manual for perioperative glucose control of an artificial pancreas. Artif Organs. 48(11). 1308-1312. doi: 10.1111/aor.14821.
10. Kumon M, Namikawa T, Takemura N, Kogure M, Sakamoto Y (2024): Association between the paracaval branches of the caudate lobe and the three major hepatic veins in liver casts: Locating the cranial boundary of the caudate lobe. Glob Health Med. 6(4). 273-276. doi: 10.35772/ghm.2024.01012.
11. Fukunaga Y, Maeda H, Yamaguchi S, Tsutsui M, Okamoto K, Tanaka T, Maeda M, Marui A, Namikawa T, Kobayashi M, Seo S (2024): An actinomycosis infection

resembling peritoneal dissemination of rectal cancer: a case report. Surg Case Rep. 10(1). 207. doi: 10.1186/s40792-024-02005-6.

12. 並川　努, 田中智規, 宇都宮正人, 横田啓一郎, 川西泰広, 藤澤和音, 宗景匡哉, 前田広道, 北川博之, 小林道也, 花﨑和弘, 瀬尾 智(2024)：胃癌術後における血清亜鉛値の評価. 外科と代謝・栄養. 58(2). 85-91.
13. 川西泰広, 相田眞咲, 藤澤和音, 宗景匡哉, 前田広道, 北川博之, 並川　努, 瀬尾智(2024)：当科における ICG 蛍光法を用いたロボット支援下肝切除術の導入. 癌と化学療法. 51(13). 1467-1469.
14. 藤澤和音, 前田広道, 相田眞咲, 川西泰広, 宗景匡哉, 北川博之, 並川　努, 瀬尾智(2024)：用手補助腹腔鏡下脾臓摘出術により安全に切除し得た脾腫瘍の 2 例. 癌と化学療法. 51(13). 1684-1686.

－学会発表－

1. Kazuhiro Nishikawa, Toru Aoyama, Akira Ooki, Koji Oba, Ryohei Kawabata, Michitaka Honda, Hiromichi Maeda, Mitsuro Kanda, Keiji Sugiyama, Akitaka Makiyama, Kenki Segami, Masazumi Takahashi, Yoshiaki Shindo, Tsutomu Namikawa, Takashi Oshima, Aya Katayama, Kazuhito Shiosakai, Junichi Sakamoto ：トラスツズマブデルクステカン（T-DXd）施行の切除不能再発胃癌患者に対する至適な制吐療法を検討する多施設共同ランダム化第 2 相試験　A Multicenter Randomized Open-Label Phase 2 Study Investigating Optimal Antiemetic Therapy for Patients with Advanced/Recurrent Gastric Cancer Treated with Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd)：EN-hance Study. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2024. 愛知.
2. 北川博之，並川　努，宗景匡哉，炭谷由佳，瀬尾　智：食道切除術における栄養カテーテル関連腸閉塞防止を目的とした腹腔鏡下空腸瘻造設術の有用性. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 2024. 福岡.
3. 北川博之，横田啓一郎，宗景匡哉，前田広道，並川　努，瀬尾　智，花﨑和弘：周術期血糖管理における人工膵臓多職種チーム運用の効果と課題. 周術期血糖管理における人工膵臓多職種チーム運用の効果と課題. 2024. 福岡.
4. 宗景匡哉，北川博之，並川　努，大畠雅之，花﨑和弘，瀬尾　智：膵頭十二指腸切除術の術前栄養評価指標. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 2024. 福岡.
5. 横田啓一郎，北川博之，宇都宮正人，並川　努，小林道也，瀬尾智：当院における腹腔鏡下空腸瘻造設術の工夫. 第 36 回四国内視鏡外科研究会. 2024. 高知.
6. 相田眞咲，藤澤和音，坂本礼聡，丸井　輝，川西泰広，横田啓一郎，山口　祥，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：高齢者の急性胆嚢炎に対する緊急手術に関する検討. 第 60 回日本腹部救急医学会総会. 2024. 福岡.
7. 横田啓一郎，北川博之，宗景匡哉，並川　努，瀬尾　智：食道癌術後に食道裂孔ヘルニア嵌頓による横行結腸壊死を生じた 1 例. 第 60 回日本腹部救急医学会総会.

2024．福岡．

8. 宗景匡哉，藤澤和音，相田眞咲，坂本礼聡，川西泰広，並川　努，井上啓史，花﨑和弘，瀬尾　智：トロッカー肝損傷に対してハイブリッド手術室を利用して安全に治療できた 1 例．第 60 回日本腹部救急医学会総会．2024．福岡．
9. 並川　努，荒木滉平，田中智規，宇都宮正人，横田啓一郎，丸井　輝，川西泰広，宗景匡哉，前田広道，北川博之，小林道也，花崎和弘，瀬尾　智：胃癌手術再建における生体吸収性補強材を用いた機械吻合の有用性．第 124 回日本外科学会定期学術集会．2024．愛知．
10. 並川　努，宇都宮正人，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，小林道也，花崎和弘，瀬尾 智：胃癌卵巣転移症例の臨床病理組織学的検討．第 79 回日本消化器外科学会総会．2024．山口．
11. 並川　努，齋藤　廉，宇都宮正人，横田啓一郎，川西泰広，山口　祥，宗景匡哉，前田広道，北川博之，長田裕典，小林道也，花崎和弘，瀬尾　智：腹膜播種による腸閉塞に対してバイパス術後長期生存し得た胃癌の 1 例．2024．滋賀．
12. 並川　努，新納健人，宇都宮正人，横田啓一郎，吉田晃弥，荒木滉平，相田眞咲，丸井　輝，前田将宏，山口　祥，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，岡本　健，小林道也，花崎和弘，瀬尾　智：進行胃癌に対する薬物治療における癌悪液質の対策．進行胃癌に対する薬物治療における癌悪液質の対策．2024．Web．
13. 並川　努，坂本 礼聡，宇都宮正人，横田啓一郎，丸井　輝，山口　祥，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，岡本　健，小林道也，花崎和弘，瀬尾　智：胃癌術後中期的経過における血清亜鉛値の変動．第 22 回日本消化器外科学会大会．2024．兵庫．
14. 並川　努：多職種で織り成す人工膵臓を用いた周術期血糖管理．第 62 回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
15. 前田広道，前田将宏，丸井　輝，高橋迪子，藤澤和音，岡本　健，北川博之，並川　努，小林道也，瀬尾　智：大腸癌による Cancer frailty を有する患者の症例提示．第 124 回日本外科学会定期学術集会．2024．愛知．
16. 宗景匡哉，荒木滉平，新納健人，田中智規，横田啓一郎，山口　祥，藤枝悠希，川西泰広，藤澤和音，前田広道，北川博之，岡本　健，並川　努，大畠雅之，花﨑和弘，瀬尾　智：合併症削減を目指した高知家レシピに基づく膵頭十二指腸切除術手技標準化の成果．第 124 回日本外科学会定期学術集会．2024．愛知．
17. 前田将宏，前田広道，丸井　輝，田中智規，北川博之，岡本　健，並川　努，小林道也，瀬尾　智：上行結腸粘膜下腫瘍との鑑別が困難であった結腸仮性憩室の 1 例．2024．愛知．
18. Hiroyuki Kitagawa, Nao Yamamoto, Kazumasa Orihashi, Keiichiro Yokota, Tsutomu Namikawa, Satoru Seo: Blood flow evaluation of reconstructed gastric tube in esophageal surgery using near-infrared imaging and retrospective time

intensity curve analysis. 3rd annual meeting of the AP-ISFGS. 2024. Osaka.

19. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，相田眞咲，並川　努，瀬尾　智：食道癌術後異時性重複癌手術における ICG 近赤外線蛍光法の有用性．日本蛍光ガイド手術研究会第 7 回学術集会．2024．北海道．
20. 瀬尾　智，相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努：肝胆膵外科における Advanced Visualization ー次に何を光らせるのか？ー．日本蛍光ガイド手術研究会第 7 回学術集会．2024．北海道．
21. 相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆管損傷回避を目的とした ICG 術中胆道造影の有効性の検討．日本蛍光ガイド手術研究会第 7 回学術集会．2024．北海道．
22. 小笠原佑記，沖　裕昌，横田啓一郎，石川洋一，北川博之，並川　努，瀬尾　智，内田一茂：びまん湿潤様式を呈した食道癌術後の小腸転移の 1 例．第 121 回日本消化器病学会四国支部例会．2024．徳島．
23. 瀬尾　智，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努：ロボット支援肝切除の現状と未来を考える．第 49 回 日本外科系連合学会学術集会．2024．東京．
24. 川西泰広，相田眞咲，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：肝切除おける ICG 蛍光法を用いた術中ナビゲーション．第 49 回 日本外科系連合学会学術集会．2024．東京．
25. 横田啓一郎，北川博之，並川　努，小林道也，瀬尾　智：重症大動脈弁狭窄症と食道癌の併発に対して TAVI 術後 3 週間で食道切除を施行した 1 例．第 49 回 日本外科系連合学会学術集会．2024．東京．
26. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，相田眞咲，並川　努，瀬尾　智：食道癌術前化学療法後にサイトメガロウイルス腸炎を生じた 1 例．第 67 回関西胸部外科学会学術集会．2024．大阪．
27. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，相田眞咲，並川　努，瀬尾　智：T4b 食道癌に対する初回治療，放射線治療先行と化学療法先行の比較．第 78 回日本食道学会学術集会．2024．東京．
28. 横田啓一郎，北川博之，宇都宮正人，相田眞咲，並川　努，瀬尾　智：抗 TIF1-γ抗体陽性皮膚筋炎を契機に発見された食道癌・胃癌の 1 切除例．第 78 回日本食道学会学術集会．2024．東京．
29. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，前田広道，並川　努，小林道也，瀬尾　智，花﨑和弘：食道癌周術期血糖管理と術後感染性合併症の検討．第 79 回日本消化器外科学会総会．2024．山口．
30. 瀬尾　智，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努：肝胆膵悪性腫瘍手術における ICG 蛍光観察の臨床応用最前線　ICG fluorescence navigation surgery for hepatobiliary and pancreatic malignant tumors．第 79 回日本消化器外科学会総会．2024．山口．

31. 相田眞咲，藤澤和音，川西泰広，横田啓一郎，宗景匡哉，前田広道，北川博之，岡本健，並川　努，瀬尾　智：当院における急性胆嚢炎に対する bailout procedures の成績　Clinical Outcomes of Bailout Procedures for Acute Cholecystitis in Our Hospital．第 79 回日本消化器外科学会総会．2024．山口．
32. 前田広道，前田将宏，山口　祥，丸井　輝，荒木滉平，藤澤和音，北川博之，並川　努，瀬尾　智：汎発性腹膜炎の術後の CRP は一度低下して再上昇する？第 30 回侵襲とサイトカイン研究会．2024．大阪．
33. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，新納健人，並川　努，瀬尾　智：心疾患と左肺切除歴を有する食道癌に対して低侵襲治療を行った 1 例．第 30 回侵襲とサイトカイン研究会．　2024．大阪．
34. 北川博之，炭谷由佳，若藤真子，東　和華，山中　翼，窪山直岐，竹村沙布，宗景匡哉，並川　努，瀬尾　智：高知大学の NST はタイパもコスパも重視する．日本栄養治療学会 第 16 回中国四国支部学術集会．2024．Web．
35. 相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：肝胆膵外科手術が栄養状態に及ぼす影響から超高齢時代の手術適応・周術期管理を考える．第 22 回日本消化器外科学会大会．2024．兵庫．
36. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，新納健人，並川　努，小林道也，瀬尾　智：術前化学療法が奏功した食道癌肉腫の 1 例．第 56 回 日本臨床分子形態学会総会・学術集会．2024．岡山．
37. 山口　祥，前田広道，前田将宏，岡本　健，藤枝悠希，荒木滉平，宗景匡哉，北川博之，藤澤和音，並川　努，小林道也，大畠雅之，瀬尾　智，和田倫子 戸井慎：NET を伴った tailgut cyst の一例　A case report of tailgut cyst with neuroendocrine tumor．第 62 回日本癌治療学会学術集会．2024．福岡．
38. 宗景匡哉，藤澤和音，相田眞咲，川西泰広，栗岡勇輔，前田広道，北川博之，並川　努，佐竹悠良，花﨑和弘，瀬尾　智：多発肝転移を伴う脾組織球肉腫に対し集学的治療で臨床的完全緩解を得られた 1 例．第 62 回日本癌治療学会学術集会．2024．福岡．
39. 相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：肝転移を伴う切除不能膵癌に集学的治療で R0 を達成した 1 例―外科切除の意義を考察する―．第 62 回日本癌治療学会学術集会．2024．福岡．
40. 瀬尾　智，相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努：大腸癌肝転移に対する集学的治療の up to date―Conversion を念頭においた治療戦略―．第 62 回日本癌治療学会学術集会．2024．福岡．
41. 北川博之，横田啓一郎，宇都宮正人，新納健人，並川 努，瀬尾 智：食道癌外来診療における食欲不振の検討．第 62 回日本癌治療学会学術集会．2024．福岡．
42. 宗景匡哉，藤澤和音，相田眞咲，川西泰広，前田広道，北川博之，並川　努，花嵜和弘，瀬尾　智：膵頭十二指腸切除周術期管理における人工膵臓療法の有用性．第 37 回日本外科感染症学会総会学術集会．2024．東京．

43. 宗景匡哉，藤澤和音，吉田美沙樹，山本奈緒，前田広道，北川博之，並川　努，花﨑和弘，瀬尾　智：安定した周術期血糖管理のために人工膵臓療法の有用性と課題．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
44. 北川博之，宗景匡哉，藤澤和音，前田広道，並川　努，山本奈緒，吉田美沙樹，壬生季代，瀬尾　智，花﨑和弘：基調講演 多職種で未来へ紡ぐ人工膵臓療法．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
45. 山本奈緒，吉田美沙樹，村上　武，壬生季代，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：人工膵臓療法における多職種運用の現状と課題．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
46. 吉田美沙樹，山本奈緒，村上　武，壬生季代，藤澤和音，宗景　匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：技士の視点から考えるベッドサイド型人工膵臓装置の問題点．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
47. 藤沢和音，宗景匡哉，吉田美沙樹，山本奈緒，壬生季代，前田広道，北川博之，並川努，花崎和弘，瀬尾　智：より使いやすい人工膵臓を考える．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
48. 山本奈緒，吉田美沙樹，村上　武，壬生季代，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：臨床工学技士におけるタスク・シフト／シェアの話題と多職種チーム医療の効果．第62回日本人工臓器学会大会．2024．栃木．
49. 荒木滉平，並川　努，新納健人，宇都宮正人，横田啓一郎，宗景匡哉，前田広道，北川博之，小林道也，瀬尾　智：胃癌腹膜播種に起因する腸閉塞に対してバイパス術および腹腔内ドレナージ術が奏効した1例．第54回胃外科・術後障害研究会．2024．宮城．
50. 丸井　輝，並川　努，吉田晃弥，荒木滉平，宇都宮正人，横田啓一郎，北川博之，瀬尾　智：幽門側胃切除後，空腹時に低血糖を来さずにダンピング様の症状を来した1例．第54回胃外科・術後障害研究会．2024．宮城．
51. 新納健人，横田啓一郎，北川博之，並川　努，瀬尾　智：胸部上部食道癌術後11年目に生じた反復性嘔吐症に対して手術を行い奏効した1例．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
52. 川西泰広，瀬尾　智，相田眞咲，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川努．膵頭十二指腸切除術後の残胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した1例．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
53. 横田啓一郎，北川 博之，新納 健人，並川　努，小林 道也，瀬尾　智：膵頭十二指腸切除術後の残胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した1例．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
54. 前田将宏，前田広道，荒木滉平，丸井　輝，山口　祥，北川博之，岡本　健，並川努，小林道也，瀬尾　智：診断に難渋した低異型度虫垂粘液腫瘍（LAMN）の1例．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
55. 北川博之，横田啓一郎，新納健人，並川　努，小林道也，瀬尾　智：食道切除術にお

ける胸腔鏡と縦隔鏡・胸腔鏡ハイブリッドアプローチの比較．第 37 回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．

56. 56．前田広道，前田将宏，横田啓一郎，山口　祥，藤澤和音，宗景匡哉，北川博之，荒木滉平，岡本　健，並川　努，小林道也，瀬尾　智：膵頭十二指腸切除後に腹腔鏡下回盲部切除を施行した高齢患者の一例．第 37 回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
57. 相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：超音波ガイド穿刺が困難な肝細胞癌に対する ICG ガイド腹腔鏡下 R F A の 1 例．第 37 回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
58. 宗景匡哉，川西泰広，相田眞咲，藤澤和音，前田広道，北川博之，並川　努 ，瀬尾　智：腹腔鏡下膵体尾部切除（LDP）定型化に向けた工夫と治療成績．第 37 回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
59. 山口　祥，前田広道，荒木滉平，新納健人，相田眞咲，丸井　輝，前田将宏，川西泰広，横田啓一郎，藤澤和音，宗景匡哉，北川博之，岡本　健，並川　努，瀬尾　智：胆嚢捻転症の 4 例．第 37 回日本内視鏡外科学会総会．2024．福岡．
60. 北川博之，宗景匡哉，並川　努，瀬尾　智，花崎和弘：食道癌術後人工膵臓を用いた血糖管理の精度と感染性合併症の検討．第 40 回日本栄養治療学会学術集会（JSPEN2025）．2024．神奈川．
61. 藤沢和音，相田眞咲，川西泰広，山口祥，横田啓一郎，宗景匡哉，前田広道，北川博之，岡本　健，並川　努，小林道也，花崎和弘，瀬尾　智：肝胆膵外科チームの持続と発展のために．第 86 回日本臨床外科学会学術集会．2024．栃木．
62. 横田啓一郎，北川博之，相田眞咲，並川　努，小林道也，瀬尾　智：胸腔鏡下に切除した食道嚢胞の 1 例．胸腔鏡下に切除した食道嚢胞の 1 例．2024．栃木．
63. 吉田晃弥，相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智．総胆管まで進展する胆管腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する R0 切除例．第 86 回日本臨床外科学会学術集会．2024．栃木．
64. 宮田涼太，藤澤和音，相田眞咲，川西泰広，山口祥，横田啓一郎，宗景匡哉，前田広道，北川博之，岡本　健，並川　努，小林道也，瀬尾　智：術中に胆汁漏出を契機として診断し，胆道減圧で術後合併症を回避し得た膵・胆管合流異常の 1 例．第 86 回日本臨床外科学会学術集会．2024．栃木．
65. 宗景匡哉，宗景絵里，相田眞咲，川西泰広，山口　祥，横田啓一郎，藤澤和音，前田広道，北川博之，岡本　健，並川　努，花崎和弘，瀬尾　智：本気で男女共同参画の覚悟はあるか？第 86 回日本臨床外科学会学術集会．2024．栃木．
66. 66．相田眞咲，川西泰広，藤澤和音，宗景匡哉，前田広道，北川博之，並川　努，瀬尾　智：IPNB に対するロボット支援肝外側区域切除術の手技：肝外 Glisson 一括確保．第 86 回日本臨床外科学会学術集会．2024．栃木．

**小児看護学領域**

〔教員名〕准教授：松本智津
助教　：山村真智子

【教育活動】

小児看護学では，常に“子どもと家族が主体である”こと“その子らしく健やかに育つ環境”を基盤の考えとしてもち，医療専門職としてのあり方や姿勢，知識や技術を養い，ケアや関わりの実践につなげることを目標としている．

学部教育では，2 年生前期「小児看護学概論」，3 年生前期「小児看護援助論」を担当し，授業には Active Learning を多く取り入れた．子どもと家族に関する基本知識をもとに，健康問題をもつことが子どもと家族にとってどのような体験になるのかを考え，必要となるケアや関わりを考えることができるように授業を展開した．2 年生で実施する「健やか親子実習」では，既習の子どもの成長発達を実際に地域で暮らす子どもと関わることで子どもを体感し，より深く子どもを理解することができるよう環境を整えた．また，実習前に助産師，および新生児集中ケア認定看護師から「愛着」や「親子の形成」についての講義をうけ，実習後に「健やかに子どもが育つ」ための「親と子」が考察できるよう指導を行った．3 年生の臨地実習では，病棟実習・小児科外来実習を通して，健康問題をもつ子どもと家族のケアや関わりについて，既修の知識と体験を統合し，小児看護として，現象が説明できるような教育を行った．また，卒業研究指導では，研究テーマの決定から計画書作成，実施，論文作成までの一連を指導した．

大学院教育では，母子看護学分野の教育に携わり，子どもの視点から見て，そして母子・親子を考える思考過程を導き，それぞれの視点から考えることによって実践能力の向上にむけた教育を行うとともに研究指導を行った．

【研究活動】

○松本智津

若手研究「NICU におけるフィジカルアセスメント教育の開発とその検証」の第 1 スッテップに取り組んだ．

○山村真智子

実践能力を高めるための効果的な看護学実習に関する研究に取り組んだ．

【社会活動】

○松本智津

・高知県看護協会東部 2 地区支部　委員
・高知県准看護師試験　委員
・高知大学医学部附属病院ファミリーサポート委員会　委員
・研究指導：岡山医療センター（2024 年 5 月～2025 年 2 月）にて，事例研究の進め方等

に関する講義を 3 回実施するとともに、2 名の研究指導を行う.

・安田町広報への執筆（12 月）を行う.

・こども環境学会 2025 年大会（高知）プレ・セミナー（2024 年 12 月 14 日）副実行委員長として運営に携わり，当日は司会を行う.

・ボランティア活動

1. 小鳩会総会での託児：学生 4 名とともに参加
   その他小鳩会の活動（BBQ，みかん狩り，クリスマス会）のコーディネイト
2. 山田特別支援学校中等部修学旅行に学生 3 名，高等部学生 1 名，山田特別支援学校田野分校高等学校修学旅行に学生 1 名がボランティアとして参加（学校との調整，および学生へのオリエンテーション等を実施）
3. 「プラウイリー症候群の家族キャンプのお手伝い」のコーディネイトや事前のオリエンテーションの開催など
4. 夢の輪（障害者や家族の交流支援）イベントの学生ボランティアのコーディネイト
5. キッズバリアフリーフェスティバルに参加する学生ボランティアのコーディネイト及び説明会開催など
6. 高知大学医学部附属病院小児科病棟での，学生ボランティアによる読み聞かせのコーディネイト及び実施指導（2025 年 3 月より、月 1 回で開催）

○山村真智子

・読み聞かせ会：高知大学医学部附属病院小児科病棟に学生 2 名がボランティアとして実施（当日の準備，および学生サポート）2025 年 3 月～開始

**母性看護学領域**

〔教員名〕講師：吉村澄佳

【教育活動】

母性看護学では，女性とその子ども及び家族の健康・発達を支援するための対象理解と看護実践能力を養うことを目指し教授した．専門教育としては，「家族看護学」「母性看護学概論」，「母性看護援助論」，「母性看護学実習」，「卒業研究」に関わった．本年度の実習では対象者と関わりから心理社会的側面への支援はできたものの，周産期における身体的特徴のアセスメントに関する実習内容が不足傾向にあったため，実習計画作成時の指導と指導者への報告内容の確認を行い学生の指導に努めた．実習と自己学習を通して学生は看護について深く考えることができており，豊かな学びにつながったと考える．

【研究活動】

・看護技術のデータ化による技術習得について研究を行った．

【社会活動】

－講義－

・性教育「性感染症について知ろう！考えよう！」南国市立香長中学校（2024 年 7 月 11 日）

－社会活動－

・中芸広域連合保健福祉課母児事例検討会アドバイザー（2024 年 8 月 27 日，2025 年 2 月 25 日，3 月 25 日）
・高知県性教育推進協議会　委員
・第 49 回日本産婦人科医会性教育指導セミナーin 高知　準備委員会　委員

【研究業績】

－学会－

1. 吉村澄佳，森雄一郎：10 例分娩介助後における助産学生の会陰保護手技の習得状況―シミュレーター教材による定量的評価―．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本．

**助産学領域**

〔教員名〕教授　：石岡洋子
　　准教授：濵田佳代子
　　助教　：浦田美知

【教育活動】

学部学生に対して初年次科目の「大学基礎論」,「学問基礎論」, 教養科目の「生命倫理学」, 専門科目「卒業研究」を担当した. 大学院母子看護学分野において, リプロダクティブ・ヘルス及びウイメンズヘルスに対するケア能力を習得し, すべてのライフステージにある女性を取り巻く文化・社会的な背景から次世代育成の課題を探索し, 問題解決策を提案し得る人材の育成を目指し, PBL 型授業を行った.

実践助産学課程では, 実習科目の「助産学実習Ⅰ」,「助産学実習Ⅱ」,「地域助産学実習」は実習病院の方針に基づいた感染症対策を行いながら, 実施計画（安全対策を含む）を作成し, 適切な手続きのもとに実施した. その結果, 指定規則の分娩取り扱い基準を満たすことができた.

研究指導は, 研究指導計画書を作成し実施した. 修了生に対して修士論文の学会発表や学会誌投稿への支援を行った.

【研究活動】

○石岡洋子

AGA 児の確立モデル作成に関する研究を実施した.

○濵田佳代子

妊産婦の QOL アセスメントツール開発に関する研究を実施した.

○浦田美知

周産期における口腔ケアとメンタルヘルスとの関係に関する研究に取り組んだ.

【社会活動】

○石岡洋子

－講義－

・岡山大学大学院保健学研究科助産師リカレント教育「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 21 妊婦の体重管理について（2024 年 8 月 2 日）

－社会活動－

・中芸広域連合保健福祉課母子事例検討会　アドバイザー

○濵田佳代子

－社会活動－

・中芸広域連合保健福祉課母子事例検討会　アドバイザー

【研究業績】

－学会発表－

1. 木村奈緒美，関屋伸子，加藤江里子，磯山あけみ，大石有香，菱沼由梨，濵田佳代子，蛎崎奈津子，公益社団法人全国助産師協議会教育検討委員会：助産教育開始時における母性看護技術習得の実態－CIVID19 パンデミック 2020 年から 2023 年の推移－．第 38 回日本助産学会学術集会．2024．東京．

**精神看護学領域**

〔教員名〕教授：大坂京子
講師：高橋美美

【教育活動】

精神看護学ではあらゆる発達段階および健康水準の個人と集団を対象に，心（精神）の健康を理解し，その維持・増進への看護が展開できる能力の育成を目標としている．精神保健学を基盤に人間関係，社会動向，精神疾患の基礎的知識と技術について教授している．

学部教育では，1 年次「コミュニケーション論」，2 年次「精神看護学概論」，3 年次「精神看護援助論」「精神看護学実習」，4 年次「統合看護実習」を担当し，発展的に学べる教育デザインを意識している．令和 6 年度は感染対策をとりながら実習病棟の協力を得て，臨床で対象者とじっくりと関わる時間を増やすことができた．実像と知識を結ぶ holistic な全体像把握に学生は悩むことも多いが，退院後の生活を見据えたアセスメントができ，臨床指導者のもと看護の実践ができるよう展開した．

【研究活動】

○大坂京子

精神科における現代看護におけるケアリングとしての技術力－実践のためのモデル－を用いた現任教育プログラムの開発を行い，介入を行った．

○高橋美美

看護学生ならびに看護師における援助要請行動、SOC（Sense of Coherence）に関する先行文献を整理し，対人援助職としての特徴を捉え直す研究準備を行なった．

【社会活動】

○大坂京子

－学術活動・社会貢献－

・Advisory Broad Member, The Rozzano Locsin Institute (RLI) for the advancement of Technological Competency as Caring in Nursing and Health Sciences
・Peer reviewer for MDPI (Multidisciplinary Digital Publishing Institute)
・日本精神科看護協会高知県支部　研究発表会　査読委員・講評

○高橋美美

－社会活動－

・日本精神科看護協会高知県支部　査読委員
・国家資格登録　キャリアコンサルタント

【研究業績】

－著書－

1. 谷岡哲也，沼田周助，友竹正人，安原由子，大坂京子：メディカルスタッフのための精神医学　改訂第 2 版．中外医学社．2025 年 1 月

－論文－

1. Yoshiyuki Takashima, Hirokazu Ito, Gil P. Soriano, Yuko Yasuhara, Kyoko Osaka, Savina Schoenhofer and Tetsuya Tanioka (2024): Development of a novel instrument to measure Japanese psychiatric nurses technological competency as caring in nursing. Belitung Nursing Journal. 11(1). 14-24. Doi: 10.33546/bnj.3623.
2. Kyoko Osaka, Feni Betriana, Allan Paulo Blaquera, Krishan Soriano, Mutsuko Kataoka and Tetsuya Tanioka (2024): Nurses' in-service education program content for psychiatric nurses: An integrative review. Celebes Nursing Journal. 1(2). 58-84. Doi: 10.70848/cnj.v1i2.10. 10.70848/cnj.v1i2.16.
3. Kyoko Osaka, Allan Paulo Blaquera, Krishan Soriano, Feni Betriana, Mutsuko Kataoka and Tetsuya Tanioka (2023): In-service education for psychiatric nurses based on the technological competency as caring in nursing theory. Celebes Nursing Journal. 1(2). 116-128. Doi: 10.70848/cnj.v1i2.16.
4. Ryuichi Tanioka, Reiko Kamoi, Yoshihiro Mifune, Keita Nakagawa, Kaito Onishi, Krishan Soriano, Hidehiro Umehara, Hirokazu Ito, Leah Bollos, Rick Cho Yiu Kwan, Kyoko Osaka, Mai Sato, Eiji Takigawa, Kyoko Goda, Hironari Kamoi, Takeru Ishii, Shoko Edo, Kazushi Mifune and Tetsuya Tanioka (2025): Gait Disturbance in Patients with Schizophrenia in Relation to Walking Speed, Ankle Joint Range of Motion, Body Composition, and Extrapyramidal Symptoms. Healthcare. 13(6). 1-15. Doi: 10.3390/healthcare13060604.
3. Yuka Yamagishi, Natsuko Nakamura, Marina Minami, Kaoru Keyama, Kyoko Osaka, Nagamasa Maeda, Hiroshige Mikamo: Knowledge and awareness of human papillomavirus (HPV) influence HPV vaccination uptake among the catch-up generation in Japan. Journal of infection and chemotherapy. 31(2). 1-6. Doi: 10.1016/j.jiac.2024.09.016R.

－学会発表－

1. Soriano Krishan, Blaquera Paolo Allan, Yamanaka Risa, Betriana Feni, Kyoko Osaka and Tetsuya Tanioka (2024): What are Nurses Technological Competency as Caring in Nursing from the Patient's Perspective? 5TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES 2024, Manila, Philippines.
2. Akiyama Toshiya, Blaquera Paulo Allan, Bollos Anne Christine Leah, Soriano P.

Gil, Hirokazu Ito, Tanioka Ryuichi, Hidehiro Umehara, Kyoko Osaka and Tetsuya Tanioka (2024): Reliability of Emotion Analysis using Multi-task Cascaded Convolutional Neural Networks for Understanding Emotions from Human Facial Expressions. 5TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TECHNOLOGICAL COMPETENCY AS CARING IN NURSING AND HEALTH SCIENCES 2024. Manila. Philippines.

3. 谷岡龍一, 大坂京子, 鴨居鈴委子, 三舩義博, 下元理恵, 佐藤麻衣, 三舩和史, 谷岡哲也 (2024): 統合失調症患者における歩行速度低下および立位姿勢異常に関する動作分析. 第 47 回 中国・四国精神保健学会抄録集. 香川.
4. 山中梨沙, 宮川操, 高島佳之, SORIANO KRISHAN MALANA, 飯藤大和, 趙岳人, 安原由子, 大坂京子, 谷岡哲也 (2024): 医療職におけるケアリングとしての技術力の認識尺度の開発. 第 47 回 中国・四国精神保健学会抄録集. 香川.
5. 片岡睦子, 川田知子, 三浦幸子, 大坂京子, 谷岡哲也 (2024): 看護におけるケアリングとしての技術力の理論を用いた現任教育の開発. 第 47 回 中国・四国精神保健学会抄録集. 香川.
6. 廣田多門, 片岡睦子, 川田知子, 三浦幸子, 大坂京子, 高島佳之, 谷岡哲也 (2024): 精神科病院における看護師を対象とした「看護におけるケアリングとしての技術力」理論に関する現任教育の成果. 第 47 回 中国・四国精神保健学会抄録集. 香川.
7. 三浦幸子, 片岡睦子, 川田知子, 大坂京子, 高島佳之, 谷岡哲也(2024): 精神科病院における「看護におけるケアリングとしての技術力」理論に基づく看護管理者を対象とし現任教育の成果. 第 47 回 中国・四国精神保健学会抄録集. 香川.
8. 大坂京子 (2024): Advanced Technology と看護. 日本学術会議中国・四国地区会議. 高知県公立大学法人高知工科大学. 高知.

－その他－

1. 片岡睦子, 大坂京子, 谷岡哲也(2024): 気づき力の向上を支援する Locsin の TCCN 理論を用いた現任教育の取り組み, 三船病院における現任教育の取り組み. 看護人材育成. 21(4). 79-77.
2. 大坂京子, 片岡睦子, 谷岡哲也(2024): 気づき力の向上を支援する Locsin の TCCN 理論を用いた現任教育の取り組み, Locsin の Technological Competency as Caring in Nursing(TCCN)理論. 看護人材育成. 21(5). 1-7.
3. 片岡睦子, 大坂京子, 谷岡哲也(2024): 気づき力の向上を支援する Locsin の TCCN 理論を用いた現任教育の取り組み, 三船病院における現任教育の取り組み. 看護人材育成. 21(6). 2-9.
4. 髙井朝加, 近藤　巧, 中井省吾, 新開員代, 片岡睦子, 大下小也香, 野田美幸, 平田一志, 合田恭子, 三舩義博, 大坂京子, 谷岡龍一, 谷岡哲也 (2024): 入院中の統合失調症患者に対するサルコペニア性肥満予防の取り組み:症例報告. The Journal of Nursing Investigation. 22. 20-30. https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/4/6/0/7/2/5/_/JNI_Vol22-

1.20-30.pdf.

**地域看護学講座**

高齢者看護学領域

〔教員名〕准教授：寺下憲一郎

助教　：西井幸香

【教育活動】

高齢者看護学では，高齢化する社会のケアニーズに対応し，高齢者とその家族の QOL 向上に資する学生を育成するため「高齢者看護学概論」と「高齢者看護学援助論」により高齢者の特徴，加齢現象により起こる高齢者特有の健康問題に関する学習に加えて，新カリキュラムである「高齢者看護学実習Ⅰ」,「高齢者看護学実習Ⅱ」を学部教育として担当し，高齢者との関わりを高齢者が自立した生活を送るための看護への理解を深めた．その他，学部教育として「統合分野実習」の実習指導を担当,「学問基礎論」,「健康 B」,「地域看護学」,「医療安全論Ⅱ」の講義と指導の一部を担当した．大学院では「看護研究論」,「地域健康支援学特論」,「地域健康支援学演習」講義の一部を担当した．

【研究活動】

○寺下憲一郎

高齢者疑似体験から学ぶ老老介護への理解と援助に関する研究

介護施設における高齢者との触れ合い体験による看護学生の学習効果に関する研究

○西井幸香

RI 病棟に従事する看護師の被ばくに対する知識の自己評価と不安に関する研究

高齢者疑似体験が高齢者施設実習における学生の高齢者への関わりに及ぼす影響に関する研究

【社会活動】

○寺下憲一郎

－講義－

・准教授講師会講師派遣事業，高知県吾川郡いの町地域包括支援センター主催　いの町ケアマネジャーネットワーク会「精神疾患を持つ家族の関わり方」（2024 年 10 月 17 日）

－社会活動－

・高知大学医学部准教授講師会　会計
・KMS Research Meeting　審査員
・高知大学看護学会誌　査読委員
・広報やすだ 8 月号寄稿
・訪問看護ステーションなかやま楽校　訪問看護技術指導（2024 年 4 月～2025 年 3 月）
・介護施設ボランティア体験　学生引率及び指導（2024 年 4 月～2025 年 3 月）
・安田町健康ふれあいまつり学生ボランティア協力支援および展示ポスター制作

・台湾大学留学生に対する武道を通じて行う日本文化の体験学習

－その他－

・NPO 法人なかやま楽校　副理事

・高知大学看護学同窓会　監査

【研究業績】

－学会発表－

1. 寺下憲一郎：感情を揺さぶる「看護」．全国キャラバン 3 Questions 四国地区．2024．香川．
2. 寺下憲一郎：グループセッション「四国地区の課題，他視点トーク」コメンテーター．全国キャラバン 3 Questions 四国地区．2024．香川．
3. 近藤えこ，岡崎もえ，亀高杏，山田紗安弥，寺下憲一郎：領域別実習中の指導による看護学生の気持ちと職業選択との関連．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2024．高知．

**在宅看護学領域**

〔教員名〕講師：川村尚美
助教：柴田優里絵

【教育活動】

在宅看護学領域では，1 年次は地域で生活する人々の生活の多様性を理解し，在宅生活を支える専門職の活動の実際を理解することや，人々の暮らしや生きがいを支える地域共生社会に向けた取組の実際を理解することを目的として，1 年後期で「地域看護学」，「コミュニティ共生実習」を行った.

2 年次からは，地域で健康問題をもちながら生活する人々とその家族を統合的に理解し，QOL を維持，向上させる自立・自律にむけた生活支援ができるよう在宅看護を展開するための知識と技術の取得を目指している． 2 年後期で「在宅看護概論」，3 年前期で「在宅看護援助論」，3 年後期「在宅看護学実習」を行った．3 年後期「在宅看護学実習」の臨地実習では，訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・通所介護事業所・通所リハビリテーション事業所で実習を行い，個別ケアから家族の看護そして地域包括ケアの必要性を捉えることができる学習内容となるよう配慮した．4 年前期には「統合看護実習/在宅看護学実習Ⅱ」を担当し指導を行った．在宅看護学実習Ⅱでは入退院支援センター・地域医療連携室で実習を行い，多職種協働の重要性や地域連携の実際について学べる内容とした.

【研究活動】

○川村尚美

地域住民の認知症の人に対する態度と互助の意識との関連

○柴田優里絵

養護教諭が抱く職務上困難感に関する研究

学校に在籍する医療的ケア児への支援に関する研究

【社会活動】

○川村尚美

－講義－

・認知症高齢者に優しいまちづくり　いの町（2024 年 6 月 14 日）
・シニアすごろくプロジェクトアドバイザー　高知県中央西福祉保健所
・高知県立東高校看護専攻科「在宅看護方法論Ⅰ」（2024 年 4 月 16 日，5 月 10 日，5 月 14 日，6 月 11 日，6 月 25 日，7 月 2 日）

○柴田優里絵

－講義－

・高知県立東高校看護専攻科「在宅看護方法論Ⅰ」（2024 年 5 月 21 日，5 月 28 日，6 月

4 日，6 月 18 日）

【研究業績】

－学会発表－

1. 柴田優里絵，齋藤美和：学校での医療的ケア児への支援における看護師と養護教諭の連携・協働の実態と困難要因．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本.

**公衆衛生看護学領域**

〔教員名〕教授　：奥谷文乃
　　准教授：杉本加代
　　講師　：齋藤美和

【教育活動】

公衆衛生活動の活動分野は主として地域・産業・学校であり，それぞれ多職種との協働により保健活動は推進される．保健師資格取得希望者のみならず看護師として最低限身につけておくべき公衆衛生看護学に関連する知識・技術を各学年に応じて教授した．学生は，保健師資格取得希望の有無を 2 年年度末に決定し，4 年生で公衆衛生看護学実習を行う．

令和 6 年度の 2 年生のうち公衆衛生看護学コースを希望した学生数は 21 名であり，定員 30 名未満のため保健師育成コース選抜試験は実施しなかった．

令和 6 年度における公衆衛生看護学コースの 3 年生は，新カリキュラムにおけるコース選択学生であり，27 名が履修した.令和 6 年度の実習履修者数は 30 名であり，実習場所は行政（市町村・保健所）や企業・学校での実習を行った.行政のうち市町村での実習場所数は 17 ヶ所で,遠方の市町村で実習を行う学生は宿泊しながら実習をした．実習中の学生の不安軽減や疑問解消のために,担当教員がオンラインによるカンファレンスを行った.

【研究活動】

○奥谷文乃

嗅覚障害の新規の治療法

高齢者における嗅覚機能と認知機能の関連

○杉本加代

行政・健診機関に所属している保健師に関する研究

○齋藤美和

養護教諭に関する研究

【社会活動】

○奥谷文乃

－講義－

・高知県立大学社会福祉学部「医学概論」（2024 年 10 月 1 日，10 月 8 日，10 月 22 日，10 月 29 日，11 月 5 日，11 月 12 日，11 月 19 日，11 月 26 日，12 月 3 日，12 月 10 日，2025 年 1 月 7 日，1 月 14 日，1 月 21 日，1 月 28 日，2 月 4 日）

・高知リハビリテーション専門職大学「生理学」（2024 年 4 月 11 日，4 月 18 日，4 月 25 日，5 月 2 日，5 月 9 日，5 月 16 日，5 月 30 日，6 月 6 日，6 月 13 日，6 月 20 日，6

月 27 日，7 月 4 日，7 月 11 日，7 月 18 日，7 月 25 日）
・高知リハビリテーション専門職大学「耳鼻咽喉科学」（2024 年 4 月 11 日，4 月 18 日，4 月 25 日，5 月 2 日，5 月 9 日，5 月 16 日，5 月 30 日，6 月 6 日，6 月 13 日，6 月 20 日，6 月 27 日，7 月 4 日，7 月 11 日，7 月 18 日，7 月 25 日）
・高知リハビリテーション専門職大学「聴覚医学概論」（2024 年 4 月 12 日, 4 月 15 日，4 月 19 日，4 月 26 日）
・高知リハビリテーション専門職大学「呼吸発声発語系医学」（2024 年 9 月 30 日，10 月 7 日，10 月 21 日，10 月 28 日）
・龍馬看護ふくし専門学校看護学科「臨床医学」（2024 年 9 月 5 日，9 月 6 日，9 月 10 日，9 月 11 日，9 月 19 日，9 月 20 日）
・高知県立東高校看護専攻科「耳鼻咽喉科疾患の看護」（2024 年 11 月 1 日，11 月 8 日，11 月 15 日，11 月 23 日）
－社会活動－
・高知県地域・職域連携検討専門部会　部会長
・Auris Nasus Larynx: Reviewer Award 2024

○杉本加代
－講義－
・高知県立高知東高等学校看護専攻科「公衆衛生学」（2024 年 10 月 18 日，10 月 21 日，10 月 25 日，11 月 11 日 ）
・高知県立高知東高等学校看護専攻科「コミュニケーション論」（2024 年 8 月 30 日，9 月 6 日，9 月 9 日，9 月 13 日，9 月 20 日，9 月 27 日，9 月 30 日，10 月 4 日，10 月 7 日，10 月 11 日）
・独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校「公衆衛生学」（2024 年 8 月 29 日，9 月 2 日，9 月 10 日）
－社会活動－
・高知県嶺北広域行政事務組合要介護認定審査会　委員
・高知県嶺北広域行政事務組合障害程度区分認定審査会　委員
・高知県保健師人材育成評価検討会　委員
・全国保健師教育機関協議会中国四国ブロック　委員
・2024 年度須崎福祉保健所管内保健福祉活動報告会準備研修会（2025 年 2 月 3 日）
・2024 年度須崎福祉保健所管内保健福祉活動報告会（2025 年 3 月 3 日）
・2024 年度中央西福祉保健所市町村保健福祉関係職員研修会に向けた準備研修会（2025 年 2 月 7 日）
・2024 年度中央西福祉保健所市町村保健福祉関係職員研修会（2025 年 3 月 4 日）

○齋藤美和
－講義－

・高知県立高知東高等学校専攻科「公衆衛生学」（2024 年 8 月 26 日，9 月 2 日，9 月 9 日，9 月 20 日，9 月 30 日，10 月 4 日）
・独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校「公衆衛生学」（2024 年 7 月 11 日，8 月 30 日，9 月 13 日，9 月 17 日）

－社会活動－

・高知県新任期保健師研修会ファシリテーター（1～4 年目対象）（2024 年 8 月 6 日，11 月 8 日，12 月 16 日，12 月 19 日，2025 年 2 月 14 日）
・高知県保健師交流大会実行委員会（2024 年 9 月 15 日，11 月 2 日，2025 年 1 月 25 日保健師交流大会開催，3 月 1 日）
・高知市建築審査会委員（2024 年 11 月 12 日）
・高知放送ラジオファミリードクター（2024 年 4 月 1 日放送）

【研究業績】

―総説―

1. 奥谷文乃: 【特集】リハビリテーションを活かそう－耳鼻咽喉科頭頸部外科領域－; 嗅覚障害のリハビリテーション. ENTONI 303. 41-48. 2024.11.
2. 奥谷文乃: 特集・鼻科診療の論点－異なる立場の対話とディベート－【さまざまな治療法の中から】; 嗅覚障害に対する治療－リハビリテーションの立場から－. JOHNS.

－学会発表－

1. 柴田優里絵，齋藤美和：学校での医療的ケア児への支援における看護師と養護教諭の連携・協働の実態と困難要因．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本.
2. 池澤美和，齋藤美和：認定看護師の資格を持つ副看護師長・主任のレジリエンス．第 44 回日本看護科学学会学術集会．2024．熊本.
3. 奥谷文乃：嗅覚刺激療法全国研究経過報告．嗅覚冬のセミナー．2025．青森.

－その他－

1. 奥谷文乃：「嗅覚のしくみ－基礎から臨床まで－」.おいしさマイスター.2024．東京.
2. 奥谷文乃：「耳鼻咽喉科疾患の最近の動向」．産業医学研修会．2024．高知.
3. 杉本加代，西井幸香，清水陽太，佃　妃梨，中西胡桃，松﨑　雅：A 大学医学部学生における献血行動の実態と骨髄バンクに対する関心との関連．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2025．高知.
4. 柴田優里絵，齋藤美和：学校での医療的ケア児への支援における看護師と養護教諭の連携・協働の実態と困難要因．高知大学医学部第 24 回 KMS Research Meeting．2025．高知.

## Ⅴ．研究助成金取得状況

### 1．学内特別研究費

① インセンティブ経費

| 年度 | 種類 | 研究課題 | 実施責任者 | 実施担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 2024 年 | 科学研究費助成事業へのインセンティブ経費 | 腸音モニタリングシステムを用いた腸蠕動運動解析法による周術期環境の適正化 | 並川　努 | 並川　努 |
| 2024 年 | 科学研究費助成事業へのインセンティブ経費 | 看護師のγ線被ばくに対する不安の実態調査と不安緩和支援ツール開発 | 西井幸香 | 西井幸香 |

② その他の研究助成金

| 年度<br>（研究期間） | 種類 | 研究課題 | 実施責任者 | 実施担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 2023 年～2024 年<br>（1 年間） | 教育研究活性化事業（研究促進：研究者キャリアアップ支援） | アフターコロナにおけるニューノーマル時代に対応した医療人材育成プログラムの開発 | 中野葉子 | 中野葉子 |
| 2024 年～2025 年<br>（1 年間） | 教育研究活性化事業 | 在宅高齢者看護実践における老老介護の体験強化戦略 | 寺下憲一郎 | 西井幸香 |

### 2．学外研究費

① 科学研究費補助金

| 年度<br>（研究期間） | 種類 | 研究課題 | 研究代表者 | 研究分担者 |
|---|---|---|---|---|
| 2021 年～2024 年<br>（4 年間） | 若手研究 | 活動的な高齢者の睡眠と自律神経活動の特徴に着目した看護介入モデルの開発 | 佐藤美樹 | |
| 2023 年～2025 年<br>（3 年間） | 若手研究 | アフターコロナにおけるニューノーマル時代に対応した医療人材育成プログラムの開発 | 中野葉子 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2021 年～2024 年（4 年間） | 基盤研究（C） | 妊産婦の個別的 QOL アセスメントツールの開発 | 濵田佳代子 | 中塚幹也<br>前田長正<br>関屋伸子<br>永井立平 |
| 2023 年～2025 年（3 年間） | 基盤研究（C） | 辛味感受性の遺伝的背景がもたらす食嗜好・食行動の解明 | 村田芳博 | 奥谷文乃 |
| 2021 年～2025 年（5 年間） | 基盤研究（C） | 在宅における慢性心不全患者の栄養評価学習プログラムの開発 | 下元理恵 | 山中福子<br>久保　亨 |
| 2020 年～2025 年（6 年間） | 基盤研究（C） | 心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム | 山中福子 | 下元理恵 |
| 2021 年～2025 年（5 年間） | 基盤研究（C） | 学士課程から始める急性期人工呼吸器ケア自立学習支援教材プログラムの開発と評価 | 二本柳圭 | 谷口将志<br>寺島　修<br>寺内英真<br>下元理恵<br>栗子嘉美<br>池田恵美子<br>仲道雅輝 |
| 2021 年～2025 年（5 年間） | 基盤研究（C） | 知られていない第三の栄養不良からみたヨード欠乏による甲状腺機能低下症 | 下嶽ユキ | 菅沼成文<br>下元理恵<br>南まりな<br>小森　香 |
| 2021 年～2024 年（4 年間） | 基盤研究（C） | 会陰保護の手技習得のためのシミュレーション教材の開発 | 吉村澄佳 | 森雄一郎<br>豊永昌彦 |
| 2021 年～2024 年（4 年間） | 基盤研究（C） | アトピー性皮膚炎患者のバリア機能促進支援モデルの開発 | 山脇京子（2024 年 9 月まで） | 溝渕俊二<br>佐野栄紀<br>竹村多加<br>佐藤美樹 |
| 2021 年～2024 年（4 年間） | 基盤研究（C） | 人工膵臓を用いたサルコペニア手術患者における糖代謝動態の解明と新規治療法の開発 | 花﨑和弘 | 藤本新平<br>北川博之<br>前田広道<br>並川　努<br>宮村充彦<br>上村　直<br>宗景匡哉 |
| 2022 年～2024 年（3 年間） | 基盤研究（C） | 学校での医療的ケア児への支援における養護教諭と看護師の連 | 柴田優里絵 | 山脇京子（2024 年 9 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 携の実態と困難要因 | | 月まで)<br>齋藤美和 |
| 2024 年～2026 年<br>（3 年間） | 基盤研究<br>（C） | ラオスにおける NTDs の一つタイ肝吸虫症感染予防対策のための児童教育 | 笹岡晴香 | 宇田幸司<br>吾妻　健<br>島田郁子 |

② 産学官共同研究助成金

| 年度<br>（研究期間） | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究先/共同研究者 |
|---|---|---|---|
| 2023 年 6 月～<br>2024 年 6 月<br>（1 年間） | 看護領域における医療器具等の研究 | 花﨑和弘 | 多田邦子<br>倉本　秋<br>阿部晃之<br>関　和治 |

## Ⅵ. 看護学科運営に関する委員会・活動報告

### 1. 委員会構成

1）改革推進のための戦略的委員会

・教育・学習評価委員会
・地域協働推進員会

2）個別取組の実行委員会

【教育活動】

・実習検討委員会
・キャリア支援委員会
・卒業研究支援委員会
・入試委員会
・OSCE 検討委員会

【研究活動】

・高知大学看護学会委員会
・看護学会準備委員会
・看護学会誌編集委員会

【組織活動】

・教育・研究 FD 委員会
・看護学科看護部連携協議会
・入試・広報委員会
・国際連携推進委員会（台湾大学）
・看護学科災害対策推進委員会
・親睦会

## 2. 委員会活動報告

1）改革推進のための戦略的委員会

### 教育・学習評価委員会

〔メンバー〕高橋美美（委員長），齋藤美和，藤井千江美

【目的】

学生の卒業時コンピテンシーを評価する看護実践能力と 10＋1 の活用を促進し，e-ポートフォリオ全体の教育・学習への活用につなげる．

【活動概要】

1. 「看護実践能力」入力状況として，2 年生 56/58 名，3 年生 65 名全員，4 年生の 3 年次評価 72 名全員，4 年次評価 61/72 人の入力となった．学生へは，新学期オリエンテーション時に前年度の評価入力について説明し，各学年のほぼ全員が入力を終えることができている．4 年次評価（12 月入力）については，最終科目となる卒業研究提出後に行なっているが，8 割程度の入力状況となった．令和 6 年度 4 年生の結果集計について，学科会議で報告を行った．
2. 2.「10＋1 パフォーマンス評価」については，4 年生の統合実習後（在来生）62 名，卒業研究後（編入生）10 名，3 年生領域別実習後 58 名において，全員の教員との相互評価が終えられている．
3. 授業評価については 48 科目の担当員から授業評価に関する概要報告があった．アンケート活用状況、各平均評価などを取りまとめ学会会議で報告を行った．

【今後について】

令和 7 年度は全学年において新カリキュラムによる教育内容となる．教育・学習評価資料が得られるように，各種評価システムの入力支援ならびにデータ活用への情報提供を継続する予定である．

### 地域協働推進委員会

〔メンバー〕寺下憲一郎（委員長），中島利佳，西井幸香

【目的】

看護学科（教員・学生）と県下の関係機関の連携・協働を促進し，下記のミッションに取り組む．

1. 地域協働の推進（安田町交流促進）イベント参加
2. 広報「やすだ」への健康関連記事掲載
3. 学生の自主性を生かした取り組み（ボランティア活動の促進等）

【活動概要】

1. 安田町交流促進

「安田町健康ふれあいまつり～心と体の健康づくり～一緒に運動/一生健康！」へ参加（文化祭と同時開催）

1） 開催日：2024 年 11 月 16 日（土）9:00～15:00
2） 開催場所：安田町保健センター・文化センター
3） 参加者：学部学生 8 名（2 年生）
4） 活動内容：受付，食生活改善推進協議会（軽食配布），ほたるカフェ/バザー，健康測定と並行して食生活改善指導のポスター展示と指導等を実施した．学生全員が最後まで会場運営に協力し，イベントをよりにぎやかなものにしてくれたことについて感謝の言葉をいただいた．また，今年度の新しい試みとして食生活に関するポスターを作成し，イベント会場に展示した．当日は健康測定に来た参加者へポスターを基に食事指導を実施し，イベント終了後も高齢者の運動教室でのポスター展示の要望があった．次年度以降における学生参加へのモデルケースの一例となった．

2. 安田町の広報誌に健康関連記事の連載を行った．9 月から翌年 3 月まで，7 人の教員と 3 名の学生が対応した．
3. 今年度はイベント日に高知大学医学部看護学科の入学試験日が重なったため，教員の参加は不可能であり学生のみが参加した．参加可能な学年は 1・2 年生に案内し，参加希望者は 2 年生のみとなった．

【今後の課題】

安田町交流促進については，学生のボランティア活動を中心に住民からの評価も高いため，今後も継続していく．今年度は急遽委員長の変更と安田町の担当者の変更があったため，イベント企画についての打ち合わせが不十分な部分があった．今後は安田町からの要望も取り入れつつ，今年度実施したポスターの展示も踏まえた新しい取り組みも検討し，安田町住民の健康ニーズに対応していく．また，早期からボランティア活動に対する呼びかけを行い学生への動機づけをしていく．

2)個別取組の実行委員会

【教育活動】

---

**実習検討委員会**

〔メンバー〕松本智津（委員長），笹岡晴香，寺下憲一郎，下元理恵，高橋美美，吉村澄佳， 川村尚美

【目的】

1～4 年次までの看護学実習が効果的に展開できるように，臨地実習の共通基盤となる事柄に関して企画・運営する．また，学生の実習効果が得られるよう，実習機関である医療福祉教育機関などと連携を取り，よりよい学習環境の実現に向けて調整を行う．

【活動概要】

実習検討会の役割遂行に向け，年度初めから活動できるように役割を早期に決定し，「実習の手引き」「領域実習オリエンテーション企画・実習配置表の調整」「事故・感染対

策対応」「統合実習関連」「スチューデント・ナース（以下 SN）認定証授与式」「実習連絡会」について，役割を確認した．以後，計 11 回の委員会会議を実施し，実習状況・学生の情報について意見交換し，実習展開に必要な教育的支援についての検討を進めた．
SN 認定授与式を，医学部長，病院長，看護部長，学生課長臨席のもと 9 月 12 日（木）対面で開催した．領域実習が開始される 3 年生は，2020 年から変更された新カリキュラムで学んできた学生であった．看護学生としての自覚をもち必要な準備が行えるよう，実習開始直前の臨地実習オリエンテーションを，9 月 13 日（金）に「情報取扱オリエンテーション」「グループビルディング」，第 2 回目 9 月 20 日（金）に看護部長からの講話および，各実習病棟のオリエンテーション，そして病棟師長・実習指導者と学生との関係性の構築を促し，スムーズに実習に取り組めるよう「座談会」を開催した．

新型コロナウイルス感染症が 5 類対応となり対応が緩和されたが、実習の実施にあたっては，医学部としての方針と病院感染管理部及び看護部から提示された感染対策を基に，また、看護部と感染管理部と N95 マスクの装着基準など、実習実施に向けての感染対策指針を修正・作成・周知した．実習前には，医療従事者としての自覚とともに、実習に向けての感染対策や健康管理についての説明を行い，実習を開始した．

病棟実習に際しては，概ねコロナ前の実習形態で実施できていた．

附属病院看護部との「実習連絡会」を 3 月 14 日（金）に開催し，今年度の振り返りと次年度に向けての話し合いを実施した．

---

**キャリア支援委員会**

〔メンバー〕竹村多加（委員長），多田邦子，濵田佳代子，齋藤美和

【目的】

1. 学生が主体的に進路選択および就職試験，進学などの準備ができるよう支援を行う．
2. 卒業生と母校のつながりの強化を図り，キャリア形成を支援する．

【活動概要】

在学生及び卒業生を対象に下記の活動を実施した．

1. 進路に関する 4 月のオリエンテーションでの学生への周知について（4 年生対象）
   進路に関する支援体制（卒業研究指導・アドバイザー・コース担当教員，キャリア支援委員の役割），進路に関する情報収集，大学への提出書類，推薦書等応募書類等について説明した．
2. 卒業生と母校のつながりの強化およびキャリア形成支援について
   兵庫県病院局新人看護師「Go To Hometown」事業への協力依頼の受け入れをし，卒業生 3 名による在校生（3・4 年生対象）へのキャリア形成を支援する企画を行った．また，卒業生（医学部附属病院新人看護師や大学院生）や教員との懇親会を行うことで，リアリティーショックの緩和や今後のキャリア支援を行った．
3. 就職（入学）試験対策実施について（4 年生・大学院生対象）
   ・ 希望する 4 年生に対して，履歴書や小論文の添削，面接の練習を行い就職試験の支

援を行った.

- 希望する大学院生に対して，助産師国家試験の模擬試験対策や模擬面接を行った.
- 神戸市民病院機構看護職員採用選考【特別推薦選考】の学内応募者を募り，学内選考および推薦を行った.

4. 進路ガイダンスの実施（主に 3 年生対象）
   - 就職活動支援講座（動画）を Moodle へ配架した.
   - 高知県の就職率を高めるため，看護師，保健師，養護教諭を対象に，県内施設の就職説明会を実施し，のべ 116 名学生の参加があった．また，附属病院への採用率増加への対策も行った.
5. 進路に関する情報収集・提供（3，4 年生対象）
   - 採用募集のために来学した病院関係者との対応により，新しい採用試験案内やインターンシップ案内の情報を得，随時閲覧場所への掲示や Teams 等を通して情報提供を行った.
   - 進路経過に関する情報収集を行い，進路が決まらない学生に対しては学科会議で報告した．また，担当の教員と連絡をとり，希望者には個別に支援を行った.

【今後の課題】

キャリア支援により，4 年生はほぼ全ての学生が看護師，保健師，養護教諭として就職先を決定することができた．また，高知県内への就職率 36.1%（うち附属病院 26.4%）であり，昨年度より増加している。今後も，在学生や卒業生とのつながりをもちつつ，高知県内の就職・進学率が増加するように，学生のキャリア支援のための企画・運営をしていく必要がある.

---

**卒業研究支援委員会**

〔メンバー〕石岡洋子（委員長），中野葉子，寺下憲一郎，川村尚美

【目的】

卒業研究論文作成過程が円滑に進むように，卒業研究論文スケジュールを作成し，指導教員及び関連部署との調整を行う.

【活動概要】

1. 2024 年度卒業研究論文の取り組み
   1）卒業研究の質向上を図るために，「卒業研究中間発表会」を 9 月 18 日に対面開催し，全 17 グループが発表を行った．事後のアンケート結果より発表の準備をすることで思考の整理ができ学びが深まったという意見が多く聞かれた.
   2）卒業研究論文は，論文集を作成し看護学科教員に CD-R で配布した.
2. 2024 年度卒業研究論文への取り組み
   1） 卒業研究に取り組む学生を対象とした「卒業研究のための臨床研究講習会」を次世代医療創造センターに講義を依頼し，2025 年 3 月 3 日～14 日までオンデマンドで行った.

2） 学生の関心領域を中心にグループ編成を行い，最終的に全 17 グループとなった.
3） 今年度は対面開催とし 3 年生も参加した.
4） 今年度から，4 年生が司会・タイムキーパーとして中間発表会の運営を行った。

【今後の課題】

今後も，司会・タイムキーパーは学生が担当する方向で企画を行う.

---

**入試委員会**

〔メンバー〕石岡洋子（委員長），山脇京子（～9 月 30 日），多田邦子，並川努，大坂京子

【目的】

入学試験の円滑な実施運営を図ることを目的とする.

【活動概要】

一般選抜（前期（定員 27 人）・後期（定員 6 人）），学校推薦型選抜 I（定員 27 人）試験を行い，2024 年度は 60 人が入学した．第 3 年次編入学（定員 10 人）に関しては，5 人が入学した．入学試験は円滑に実施された.

【今後の課題】

入試選抜の方法について検討が行われ，2027 年度入試から総合型選抜 I を実施することになった。また，後期試験は廃止する．募集定員を総合型選抜 I 20 名，学校型推薦 I 10 名，前期日程 30 名に変更とすることとなった.

---

**OSCE 検討委員会**

〔メンバー〕下元理恵（委員長），大坂京子，山脇京子，西井幸香

【目的】

臨床で必要な看護判断・看護技術・態度・コミュニケーションの到達度に関して試験の計画・実施・評価を行う.

【活動概要】

- 2024 年 4 月から計 5 回の委員会を対面で実施し，OSCE 実施に向けて検討を行った.
- 模擬患者は，看護学科教員が行うよう試験内容を計画し，実施した.
- 評価表を再検討してその検証のためにプレテストを行い，その後，評価者間の評価の均一化を図るとともに模擬患者の事例に対する共通認識を図るために全教員を対象にプレテストを行い，内容の検討および修正を行った.
- 対象は 4 年生とし，実習検討委員会と協同して統合看護実習の成績評価に含め実施した.

【今後の課題】

- 対象学年の検討

・ 科目単位化の検討
・ 事例や試験内容の検討

---

【研究活動】

**高知大学看護学会委員会**

〔メンバー〕大坂京子（委員長），濵田佳代子（準備委員長），石岡洋子（学会誌委員長），山脇京子（～9 月 30 日），笹岡晴香，佐藤美樹，中野葉子，中島利佳，西井幸香

**看護学会役員会**

【目的】

高知大学看護学会役員会は，資産管理，予算・決算，会則改正ならびに諸規定の制定及び改廃，その他本会の運営に関する一切の事項について審議する．

【活動概要】

下記の通り役員会および学会を開催した．

1. 5 月第 1 回役員会を対面で開催し，事業計画および第 19 回高知大学看護学会企画、2025 年度役員改正、会則改正について検討した．
2. 7 月第 2 回役員会をメールにより開催し，企画概要の方針を決定した．
3. 11 月第 3 回役員会を Zoom により開催し，会計決算，次年度の役員改選，事業計画及び予算案を検討した．

【今後の課題】

会則改正を含め今後の運営について慎重に検討する．

**看護学会準備委員会**

【目的】

第 19 回高知大学看護学会の企画・運営・その他役員会が必要と認めた事項の取り組みを遂行する．

【活動概要】

1. 第 19 回高知大学看護学会概要
   1）日時：2024 年 11 月 9 日（土）（web 開催）
   2）学会テーマ：「高知大学医学部看護学科創立 26 周年を迎え看護の原点を辿る未来につなげる看護の役割と専門性」
   3）講演
   講演 1：「高知大学医学部看護学科の創設時を振り返って」
   講師　栗原　幸男氏（高知大学名誉教授）
   講演 2：「高知大学医学部看護学科を卒業して」
   講師　笹岡　晴香氏（高知大学教育研究部医療学系看護学部門准教授）
   4）一般演題研究発表：示説（オンラインディスカッションによるポスター発表 1 演題）
2. 学会参加者：77 名

3.　看護学会準備委員の開催：合計 3 回

【今後の課題】

学会参加者及び演題発表者の減少への対処について学会開催方法変更を含め検討する.

---

**看護学会誌編集委員会**

〔メンバー〕中野葉子（委員長），石岡洋子，中島利佳、

【目的】

高知大学看護学会誌を編集し刊行する.

【活動概要】

1.　高知大学看護学会誌第 18 巻第 1 号を発行した.
2.　本号は，原著 2 編，および 2024 年 11 月 9 日に開催された第 18 回高知大学看護学会の報告からなっている.

【今後の課題】

・投稿数が増えるように情報発信をする.
・査読過程の充実を図る.

---

【組織活動】

**教育・研究 FD 委員会**

〔メンバー〕中野葉子（委員長），多田邦子，柴田優里絵

【目的】

看護学科教員に対し，FD（Faculty Development)活動を企画開催し，教育力・研究力の向上を図る.

【活動概要】

1.　FD の企画
2.　FD の開催『災害看護』(2024 年 4 月 15 日,22 日）参加者　28 名『医療安全』(2025 年 10 月 10 日,17 日，24 日）参加者　29 名

【今後の課題】

本年度は,「災害看護」「医療安全」をテーマに FD 活動を実施し，教員の専門性向上を図った．一方で，FD が単発的で体系化されていない点や，参加率にばらつきがあることが課題として浮かび上がった．今後は，教育・研究・臨地実践を含む年間計画の策定，FD の意義の共有と参加促進，若手教員への支援体制の整備が求められる．また，実践的・双方向型の FD の充実と，振り返りを通じた教育活動の可視化により，継続的な教育力向上を目指す必要がある.

**看護学科看護部連携協議会**

〔メンバー〕佐藤美樹（委員長），大坂京子，多田邦子，松本智津

【目的】

看護部との連携を強め，人事交流，看護研究の推進，より良い看護師養成等について，看護部管理者との協議を推進する．また、令和 6 年 2 月の会議にて、連携会の目的を教育・実践の質の向上，新人のメンタルサポート（離職防止），学科卒業生の就職・定着を追加した．

【活動概要】

令和 6 年度から，看護学科看護部連携協議会を定期開催とし，初年度は 4 回（5 月 16 日，8 月 29 日，11 月 13 日，令和 7 年 2 月 27 日）開催した。議事進行は交代制とした．看護部メンバーは下記 5 名（敬称略）となり、看護学科併せて 9 名の構成員となった．

看護部長　　原田千枝

副看護部長　南部　桂（総務担当）

副看護部長　坂本美和（医療安全担当）

副看護部長　竹内若夏子（業務担当）

副看護部長（5 月 1 日～）谷　めぐみ（教育担当、現在教育担当師長）

初回に上記目的に追加した会の目的の確認がされ、今年度から定期開催となった．実習での課題の共有や各実習の円滑な運営に関する依頼協力を仰ぎながら連携し，附属病院での実習体制を整えた.また，就職試験の情報共有、卒業生の動向では，6 月開催のキャリア支援委員会開催・看護学科同窓会協賛のホームカミングディへの参加協力依頼などを行い，附属病院就職生全員が参加する事が出来た．附属病院新人卒業生が母校にて同級生や教員と現状を語り情報を共有することで，卒業生の気分転換やリフレッシュを図ることで離職防止に繋げるように，また教員も卒業後の状況を把握することができ，今後の進路指導や就職では，看護学科卒業生が過去最高数で高知大学医学部附属病院に就職することができた．

【今後の課題】

ホームカミングディや就職説明会を通して附属病院への就職に繋げる事や卒業生の状況を把握することで，人事交流を深めていく．現在，看護学科の講義には看護部にもご協力いただいているが，今後さらに教育・実践の質向上に向けた方略について，継続審議していくこととなった．

**入試・広報委員会**

〔メンバー〕下元理恵（委員長），杉本加代，竹村多加

【目的】

高知大学医学部看護学科および総合人間自然科学研究科が広く地域社会の中に位置づけられ，入学生の確保につながるよう，本学の特色や現況および活動等に関するホームペー

ジを介した広報，教育・研究・社会活動等に関する年報の編集，入試に関する広報の企画・調整を行う．

【活動概要】

・2023 年度年報の作成依頼と編集
・ホームページ管理（看護学科・看護学専攻）
・授業の様子やイベント等の写真撮影
・学生募集要項の送付先の検討（看護学科・看護学専攻）
・訪問する高校と担当者の検討，持参する資料の検討と依頼を入試室とともに実施
・2024 高知看護フェアへの参加（高知県看護協会，2024 年 5 月 25 日）
・私立高知高等学校大学訪問，入試室・医学科と共に実施（2024 年 7 月 16 日）
・夢ナビライブ講師依頼
・オープンキャンパス企画・調整・運営（2024 年 8 月 4 日）
・高知県立国際高等学校大学訪問，入試室・医学科と共に実施（2024 年 10 月 1 日）
・医学部案内企画と執筆依頼および校正，大学案内執筆依頼と校正
・総務企画課広報調査対応（teams に様式をアップし随時受付に変更）
・3 年次編入希望者対象の進学説明会（かるぽーと，2025 年 3 月 16 日）
・高知県看護関係学校進学ガイドの編集・校正
・進学情報雑誌（進学 FORUM）掲載原稿確認

【今後の課題】

看護学科および看護学専攻における受験者数の確保に向け，広報内容の充実とタイムリーな情報発信を行う．入試室との連携とともに学生や教職員との更なる連携も必要である．

---

**国際連携推進委員会（台湾大学）**

〔メンバー〕奥谷文乃（委員長），石岡洋子，藤井千江美

【目的】

交換留学により台湾の看護学教育や文化に触れることで国際的視点の看護を考える重要性を学ぶ．また，台湾大学から学生を受け入れ，英語でコミュニケーションをとりながら日本の看護学教育や文化を紹介することで国際的な大学間交流及び学生間交流を推進する．

【活動概要】

４年ぶりに活動が再開された。

まず，2025 年 1 月 6～10 日には国立台湾大学から 6 名の学生が来日した．１週間のプログラムには，附属病院・土佐山へき地診療所のほか外部施設として介護事業所・(株)垣内において，看護学の広い領域にわたって見学・実習を行なった．また高知特有の観光文化施設での体験を盛り込んだ．国際交流セミナーでは、両国の健康課題についての発表・討論が行われた．台湾大学の学生は全般にわたって積極的で、活発な質疑がなされ

た.
一方 2025 年 3 月 10〜14 日には、2 年生 3 名の学生が台湾での留学に参加した．2 年生 3 名とも台湾で様々な学びができ，充実した経験となった.
　すでに 2025 年度についても受入・派遣のスケジュールが決定しており，このまま活動の継続がなされる見込みである.

---

**看護学科災害対策推進委員会**

〔メンバー〕吉村澄佳（委員長），高橋美美　（両名とも任期 8/16 まで）

【目的】

　教職員と学生の両者が，避難場所が明確になり，災害時の防災行動がとれる.

【活動概要】

　先端医療学コースの災害・救急医療研究班が作成した「オンラインツールを用いた災害教育プログラム」を各学年のオリエンテーション時に放映し，学生に視覚的な初動行動の理解と避難経路の確認を促した．加えて新入生に対しては居住地区の防災マップの確認や自宅での被災時の対応について説明を行った.

また，学内外の臨地実習における災害時における安全確保のため，実習の手引きに災害時の対応について項目を加筆・修正し，学生の意識強化と完全確保に対応した.

【今後の課題】

・防災に関する知識と体験型訓練を行うための授業時間の確保
・指揮統制の訓練や避難体制の見直し
・看護学生の学外実習時の災害時の対応内容の見直

---

**親睦会**

〔メンバー〕杉本加代（委員長），柴田優里絵

【目的】

　看護学科教職員の相互の親睦と互助を図る.

【活動概要】

1. 親睦会としての新任教員への歓迎品贈呈
2. 教授の退任祝賀会の開催
3. 退職職員への餞別贈呈

高知大学医学部看護学科
年報　2024（令和 6）年度
2025 年 10 月発行

発行者　高知大学医学部看護学科
〒783-8505　高知県南国市岡豊町小蓮
TEL088(880)2520
編集者　看護学科入試・広報委員会